ご挨拶

特定非営利活動法人日本現代音楽協会
理事長
近藤 譲
Jo KONDO

本日は、〈現音 Music of Our Time 2022〉にお運びくださり、誠に有難うございます。

数年間にわたってコロナ禍のために滞っていた演奏会活動も、徐々に以前のような状態に戻りつつあるように感じられるこのごろです。感染症流行の危機が去ったわけではありませんが、たとえそうであっても、活動を行っていかなければ、音楽文化は停滞し、活力を失ってしまいます。そのようなことがあってはならないという気持ちが、音楽家たちを強く突き動かしているに違いありません。

現音は、社会のどの様な状況下にあっても新たな音楽創造のエネルギーを絶やさずに示し続けるという決意の下に、昨年も一昨年も〈Music of Our Time〉を開催してまいりましたが、本年度は、その決意を一層強くして、現代という時代に生を共にする作曲家と演奏家が挑む新たな挑戦の数々を、皆様にお届けいたします。

本年度の〈現音 Music of Our Time〉のプログラムは、会員作曲家たちがそれぞれの音楽的立場に立って新作を世に問う「フォーラム・コンサート」（11 月 24 日、11 月 25 日）、若い世代の作曲家たちの意欲に溢れた作品の創造を促す目的で毎年開催されている作曲コンクール「現音作曲新人賞」の本選演奏会（12 月 5 日）、そして、現代音楽を積極的に演奏している演奏家を支援するための公募リサイタル・シリーズ「ペガサス・コンサート」――本年度は、小寺香奈氏のユーフォニアム・リサイタル（12 月 8 日）と近藤聖也氏のコントラバス・リサイタル（12 月 9 日）です――、更に、最終日 12 月 25 日の演奏会は、今回で 15 回目を迎える隔年開催の現代音楽演奏コンクール「競楽」の本選演奏会です。このコンクールは、これまでに多くの優れた演奏家たちを輩出してきました。今年もここから、新進気鋭の素晴らしい演奏家が羽ばたいていくに違いありません。

どうぞ、新たな音楽の創造のエネルギーに満ちた現場を存分にお楽しみ下さい。

2022 年 11 月

現音 Music of Our Time 2022

11月13日（日）	レクチャー Series 新しい創造の扉 第1日 「AIと現代音楽」 ■13:30開場／14:00開演 ■洗足学園音楽大学アンサンブルシティ棟C604教室
11月24日（木）	フォーラム・コンサート 第1夜 ■18:00開場／18：30開演 ■東京オペラシティリサイタルホール
11月25日（金）	フォーラム・コンサート 第2夜 ■18:30開場／19：00開演 ■東京オペラシティリサイタルホール
12月4日（日）	レクチャー Series 新しい創造の扉 第2日 「カーゲル再考」 ■13:30開場／14:00開演 ■洗足学園音楽大学アンサンブルシティ棟C210教室
12月5日（月）	第39回現音作曲新人賞本選会 ■18:30開場／19：00開演 ■東京オペラシティリサイタルホール
12月8日（木）	ペガサス・コンサート Series Vol.Ⅳ ❶小寺香奈（ユーフォニアム） 「ユーフォニアム微分音カタログ」 ■18:30開場／19:00開演 ■東京オペラシティリサイタルホール
12月9日（金）	ペガサス・コンサート Series Vol.Ⅳ ❷近藤聖也（コントラバス） 「Ghost in the Double bass」 ■18:30開場／19:00開演 ■東京オペラシティリサイタルホール
12月25日（日）	第15回現代音楽演奏コンクール“競楽XV”本選会 ■13:20開場／13:30開演 ■けやきホール

主催：特定非営利活動法人日本現代音楽協会（国際現代音楽協会日本支部）
助成：一般社団法人 日本音楽著作権協会（JASRAC）
　　公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団
後援：一般社団法人日本作家団体協議会（fca）
　　一般社団法人日本作曲家協議会
　　公益財団法人サントリー芸術財団（12/8,9）

gen-on Music of Our Time 2022

Sun. 13 Nov.	Lecture Series, Door to New Creation 1 "AI and Contemporary Music" ■ 14.00 ■ Senzoku Gakuen College of Music, Ensemble City C604
Thu. 24 Nov.	Forum Concert 1 ■ 18.30 ■ Tokyo Opera City Recital Hall
Fri. 25 Nov.	Forum Concert 2 ■ 19.00 ■ Tokyo Opera City Recital Hall
Sun. 4 Dec.	Lecture Series, Door to New Creation 2 "Kagel Rethink" ■ 14.00 ■ Senzoku Gakuen College of Music, Ensemble City C210
Mon. 5 Dec.	The 39th JSCM Award for Composers, Final stage ■ 19.00 ■ Tokyo Opera City Recital Hall
Thu. 8 Dec.	Pegasus Concert Series Vol.IV ❶ KOTERA Kana, *euphonium* "Euphonium Microtonal Catalog" ■ 19.00 ■ Tokyo Opera City Recital Hall
Fri. 9 Dec.	Pegasus Concert Series Vol.IV ❷ KONDO Seiya, *double bass* "Ghost in the Double bass" ■ 19.00 ■ Tokyo Opera City Recital Hall
Sun. 25 Dec.	The 15th JSCM Competition for Contemporary Music Players, "KYOUGAKU XV", Final stage ■ 13.30 ■ Keyaki Hall

Organization: Japan Society for Contemporary Music (ISCM Japanese Section)
Sponsorship: Japanese Society for Rights of Authors, Composers and Publishers (JASRAC)
The Mitsubichi UFJ Trust Foundation
Cooperationg Company: Japan Federation of Authors and Composers Association(fca)
Japan Federation of Composers
Suntory Foundation for the Arts [12/8,8]

〈現音 Music of Our Time 2022〉

フォーラム・コンサート 第1夜

2022年11月24日［木］ 18:00開場 18:30開演

東京オペラシティリサイタルホール

1 河野敦朗／scenes

作曲 2022 年／初演

菊地秀夫（バス・クラリネット） 榑谷静香（ピアノ）

2 田口雅英／チェロ独奏の為の「浄瑠璃」

作曲 2022 年／初演

北嶋愛季（チェロ）

3 平良伊津美／Affectus V ～バスフルートとクラシックギターのための～

作曲 2022 年／初演

大野和子（バス・フルート） 山田岳（ギター）

4 浅野藤也／フルート、クラリネット、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための音楽

作曲 2022 年／初演

増本竜士（フルート） 田中香織（クラリネット） 亀井庸州（ヴァイオリン） 松本卓以（チェロ） 大須賀かおり（ピアノ）

――休憩――

5 二宮　毅／三瀬川

作曲 2022 年／初演

篠﨑史子（ハープ）

6 遠藤雅夫／ヤルダン～風の壁画

作曲 2020 年

田嶋直士（尺八） 植木昭雄（チェロ）

7 高見富志子／禱Ⅱ～トロンボーン三重奏のための

作曲 2022 年／初演

村田厚生・西岡基（テナー・トロンボーン） 飯田智彦（バス・トロンボーン）

8 ロクリアン正岡／弦楽四重奏曲第3番「異形・日本・かぐや姫」

作曲 2013 年

Quartet・Fluorite：矢澤結希子・石川倫歌（ヴァイオリン） 加藤星南（ヴィオラ） 小野口紗（チェロ）

gen-on Music of Our Time 2022

Forum Concert 1

Thursday 24 November 2022, 18.30
Tokyo Opera City Recital Hall

KONO Atsuro/ scenes 1
2022, premiere
KIKUCHI Hideo, *bass clarinet* KURETANI Shizuka, *piano*

TAGUCHI Motohide/ "Joruri" for Violoncello solo 2
2022, premiere
KITAJIMA Aki, *violoncello*

TAIRA Itsumi 3
Affection V -for Bass flute and classical Guitar-
2022, premiere
OONO Kazuko, *bass flute* YAMADA Gaku, *guitar*

ASANO Fujiya 4
Music for flute, clarinet, violin, violoncello, and piano
2022, premiere
MASUMOTO Ryuji, *flute* TANAKA Kaori, *clarinet* KAMEI Yoshu, *violin*
MATSUMOTO Takui, *violoncello* OHSUGA Kaori, *piano*

— Intermission —

NINOMIYA Tsuyoshi/ Cross the River for Harp solo 5
2022, premiere
SHINOZAKI Ayako, *harp*

ENDO Masao/ YARDAN-Mural of Wind 6
2020
TAJIMA Tadashi, *shakuhachi* UEKI Akio, *violoncello*

TAKAMI Toshiko/ Prayers for three trombones 7
2022, premiere
MURATA Kousei, NISHIOKA Motoki, *tenor trombone* IIDA Tomohiko, *bass trombone*

Locrian MASAOKA/ String quartet No.3
“Heteromorphism•Japan•The bamboo princess” 8
2013
Quartet•Fluorite: YAZAWA Yukiko, ISHIKAWA Rinka, *violin*
KATO Seina, *viola* ONOGUCHI Suzu, *violoncello*

1

河野敦朗
scenes
作曲 2022 年／初演

KONO Atsuro
scenes
2022, premiere

曲名の scenes は、「光景」の意味。音楽でも芸術でも自然でもなく、豊かな、未知の、よろこばしい何か、、、、

Profile ►東京生まれ。東京芸術大学作曲科卒業。長谷川良夫、南弘明、中村茂隆、北村昭、各氏に師事。在学中より作品を発表し、卒業後、現音その他で新作の発表を続ける。大分県立芸術文化短期大学名誉教授。大阪府高槻市在住。

2

田口雅英
チェロ独奏の為の「浄瑠璃」
作曲 2022 年／初演

TAGUCHI Motohide
"Joruri" for Violoncello solo
2022, premiere

浄瑠璃とは、三味線を伴奏として台詞や旋律に乗せて物語を語っていく音楽の総称である。その原型は室町時代に成立したが、江戸時代に入って本格的に発展した。大阪で文楽とともに発展した義太夫節の他、江戸で歌舞伎とともに発展した常磐津節、清元節、舞台と離れて伝承された河東節、一中節、新内節などの他、現在では長唄の演奏家によって伝承されている大薩摩節など、多種多様なものが現在も演奏されている。

義太夫の場合は低音が魅力的な太棹三味線、その他はより音域の高い中棹や細棹が用いられる。

この曲は、伝統的な素材を模倣した部分とそこからの様々な逸脱や変形の組み合わせからなっており、浄瑠璃の音楽の要素を現代的な手法で素材化・再構成することを試みた。

チェロと同様に低音域に魅力のある太棹三味線を用いる義太夫節の三味線の手や太夫の語りに主な着想を得ているが、上記のような他の様々な浄瑠璃にも影響を受けている。短い小品ではあるが、お楽しみ頂けたら幸いである。

初演を引き受けて下さったチェロの北嶋愛季氏に、心から感謝致します。

Profile ►松永通温・松尾祐孝・早川和子の各氏に師事。1999 年第 16 回現音作曲新人賞に入選し、作曲活動を始める。日本やアジアの伝統音楽の要素を自作品に反映させることに興味があり、伝統音楽の構造の応用や、儀礼的要素の導入等、様々な手法を試みている。

3

平良伊津美
Affectus V
～バスフルートとクラシックギターのための～

作曲 2022 年／初演

TAIRA Itsumi
Affection V - for Bass flute and classical Guitar -
2022, premiere

“Affectus”とは、ラテン語で「情緒」という意味です。

今回は、バスフルートを用い、合わせの楽器に、クラシックギターを選びました。

絶妙な音質、音量バランスで見事なアンサンブルに仕上がったと思います。

今作品は、フーガを多く用い、ある意味古典的な作品になりました。

また、特殊奏法も多く使い、引き締まった作品になりました。

演奏してくださった、大野和子さん、山田岳さんには、心から感謝いたします。

Profile ► 静岡大学教育学部音楽科卒業、東京芸術大学音楽学部別科作曲専修修了。第 11 回埼玉県新人演奏会作曲部門入賞。第 12 回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第 3 位受賞。ピアノ連弾曲「小さな動物の森」出版。後進の育成に当たる。

4

浅野藤也
フルート、クラリネット、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための音楽

作曲 2022 年／初演

ASANO Fujiya
Music for flute, clarinet, violin, violoncello, and piano
2022, premiere

それぞれの楽器が対立することなく、それぞれの歌を歌いながらお互いに寄り添うように、溶け合うようなアンサンブルになるように心がけながら作曲した。日本の伝統音楽が参考になっている。

Profile ► 作曲を浦田健次郎、ピアノを故庄子みどりの各氏に師事。2006 年第 17 回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門入選、2008 年第 12 回日本の音楽展・作曲賞入選、2009 年第 14 回東京国際室内楽作曲コンクール第 3 位。2012 年東アジアの現代音楽祭 in ヒロシマ、2014 年東アジア音楽祭 in ヒロシマに参加。2020 年 2 月 OM-2 公演舞台音楽を担当。

5

二宮　毅
三瀬川
作曲 2022 年／初演

NINOMIYA Tsuyoshi
Cross the River for Harp solo
2022, premiere

「三瀬川」は三途の川の別称。時に「葬頭河（そうずか）」「渡り川」とも称する。亡き人が冥土へと渡るために越えなければならぬ川とされ、彼岸と此岸とを隔てる。緩急の異なる三つの瀬があり、生前になした行為によって渡る場所が異なることから、名称に「三」の文字が含まれる。『源氏物語』三十一帖〈真木柱〉の連歌にも詠まれ、人が古くから死後の道行きへすら関心を持たざるを得ないことを思わされる。このコロナ禍において、つかの間の不通のはずが思いがけず永久の離別となり、その見送りすら敵わぬものが相次いだ。それは送る者のみならず旅立つ者にもまた同じであったのかとも思う。こうしたことの自身の身近な知人への送りの音楽として、この作品を編むに至った。

Profile ► 1972 年生まれ。笹川賞（合唱）、名古屋文化振興賞（室内楽）、東アジア国際作曲コンクール（オルガン作品）入賞。日本の古典文学や伝統芸術に宿る情緒性を反映した作品は、アジア及びヨーロッパ各地の音楽祭に招かれ演奏、録音される。最近作にマドリガーレ・オペラ《土方歳三最後の戦い》《北海道開拓使》、クラリネット協奏曲《遺風》など。日本創作歌曲研究会、福岡市国際作曲家会議、作曲集団 KALEIDISM 各代表。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日本・ロシア音楽家協会、北海道作曲家協会、青森作曲家協会、現代作曲同人소리유희（SORIYUHI ／韓国）各会員。2015 年ボルドー音楽院（フランス）レジデンス作曲家。福岡教育大学教授兼副理事。

6

遠藤雅夫
ヤルダン～風の壁画
作曲 2020 年

ENDO Masao
YARDAN-Mural of Wind
2020

ヤルダンとはウイグル語で「険しい崖のある土丘群の地」の意味である。風雨などにより地面の柔らかい部分が侵食され、堅い岩部分が小山のように残っている。中央アジアによく見られ、ネットには写真がいくつも掲載されていて、ロマンを誘う不思議な世界が展開されている。それは風が書いた壁画のようだ。この幻想的な光景を尺八とチェロで転写しようと作品を書き進めた。もし体力時間資力社会状況が整えば、敦煌にある国家地質公園で、満月に照らされたヤルダンを見たいものだ。

全 3 楽章により組み立てられている。尺八は 1 楽章は一尺八寸、2 楽章では 1 尺 6 寸、3 楽章二尺三寸管が使われ、それぞれ朝昼夜のイメージを重ねた。邦楽器尺八と洋楽器チェロは寄り添うように扱われている。

2021 年札幌における北海道の作曲家展で、尺八：後藤双丈、チェロ：文屋治美の両氏により初演された。

Profile ► 1947 年東京生まれ。藝大大学院修了。日本音楽コンクール入選、音楽之友社作曲賞、文化庁舞台芸術創作奨励特別賞受賞。作品は国内外の音楽祭に招待されるなど数多く演奏されている。管弦楽作品、NHK 委嘱による電子音楽作品、室内楽作品、ピアノ作品、歌曲、合唱曲をはじめとして作品多数。

7

高見富志子

禱Ⅱ～トロンボーン三重奏のための

作曲 2022 年／初演

TAKAMI Toshiko

Prayers for three trombones

2022, premiere

2015 年に「禱～フルート・ソロのための」を発表いたしました。当時は東日本大震災の爪痕が未だ生々しく、また、色々な場面で大切な人との別れに遭遇していた時期で、そうした惜別の気持ちをフルート・ソロという静謐な形で表現したいとの思いからでした。

その後5年を経過した 2020 年初には突如発生したパンデミックは姿形を変え、多くの人々の心に新たな戸惑いや悲しみの影を落としていますが、私自身もその余りの大きさ、重さに未だ心の整理つかないままの状況です。

本作品は、前述 2015 年作の続編ともいえるものです。トロンボーンは、内省的な最弱音から威圧的な最強音まで音の幅が非常に広い楽器とされています。曲は、3 つの部分から成っており、こうした、私の千々に乱れる今の思いをトロンボーン三重奏によって表現することを試みました。

このたび、拙作の初演を引き受けて頂いた村田厚生氏、西岡基氏、飯田智彦氏のお三方には心より感謝申し上げます。

Profile ►東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。第 46 回日本音楽コンクール入選。作品は NHK-FM「現代の音楽」、「ハーモニーの家・高原音楽祭」、「異なった視線―文化変容の接点」（1999 於ドイツ）、国際現代音楽祭「モスクワの秋」（2000 於ロシア）等で取り上げられている。第４回日本現代音楽展「風と枯木の歌」（JILA-1104）。日本現代音楽協会、日本・ロシア音楽家協会、Apsaras 各会員。

8

ロクリアン正岡

弦楽四重奏曲第3番
「異形・日本・かぐや姫」

作曲 2013 年

Locrian MASAOKA

String quartet No.3 “Heteromorphism・Japan・The bamboo princess”

2013

初演の時にも書いたように、かぐや姫が地球の “六人” の男の結婚要望を拒んだ如くに一オクターブ半音階の一つ置きの音を捨て、残る 6 音のみによる全音音階（WTS）に使用音を限ったというのが 外形上の特徴である。視覚には主観的輪郭（心理 学用語）といって、無いものがあるように見える現 象があるとか。例えば朝日新聞のロゴマークで ASA の下に円弧が見えるように。これは錯覚でありながら補正機能ともいえるもので、日常生活で安定した現実空間を想定するのに寄与しているといえる。本楽曲はその聴覚版と言ってよいものだ。音楽においてすっかり世の中に定着した長音階なるもの。よほどの音楽音痴でない限り我々現代人 はすっかり全音階（DS）に調律されている。演奏者が発射する全音音階の音達が撥のように人 の聴覚を打つとき、自ずと全音階の音が鳴り 12 個のいずれかの調性感が備わるのである。鑑賞 とは何だろう？　受容側の無意識の層には無尽蔵 の想像力や創造性が存在することが本上演で確 かめ得るのでは？医療に置いても主役は患者の 方ではないか？されば、作曲行為とは演奏行為を 借りつつ受容者のそのような潜在能力を引き出す 仕掛け作りに過ぎなかろう。ことは音楽や医療に とどまらない。あらゆる領域で受容者の豊穣な内 的世界に洞察の目が向き、それを通して日本仏教でい う “他力” が顕在化してゆく。これからはそうあ らねばならない時代だと、私は思う（詳細はＨＰトップに）。

出演者プロフィール

菊地秀夫（バス・クラリネット）

►桐朋学園大学、同大学研究科修了。クラリネットを二宮和子氏に師事。1993 年現代音楽演奏コンクール“競楽 II”にて、内山厚志氏とのデュオで第 2 位入賞。1996 年ダルムシュタット音楽祭で奨学生賞を受賞。卒業後アンサンブル・ノマドのメンバーとして活動。音楽企画ユニット「Office でく」主宰。国立音楽大学及び尚美学園大学非常勤講師。

榑谷静香（ピアノ）

►東京都出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。古典作品から新作初演まで、ソロ・アンサンブル共に幅広く演奏活動を行う。大学在学中より同時代の作曲家たちとの企画に積極的に携わっており、これまでに数多くの新作初演を手がけている。録音作品においては、小出稚子作品集【南国の魚、極彩色の夜】(配信限定版)、星谷丈生作品集【四季】(fontec)、川上統【組曲『甲殻』】(ALM Record) がリリースされている。

北嶋愛季（チェロ）

►近年はバロックとモダン 2 台のチェロによる独奏演奏会を展開。 また国内外の数々の演奏会・現代音楽祭にソリスト・室内楽奏者として出演する。2013/14 年度インターナショナル・アンサンブ ル・モデルン・アカデミー奨学生。メンデルスゾーン・ドイツ国立音楽大 学コンクール現代音楽アンサンブル部門 第 3 位受賞。フランクフルト音楽・舞台芸術大学 古楽器科 (バロックチェロ) 修士号取得。www.akikitajima.com

大野和子（ピッコロ）

►上野学園大学音楽学部フルート科卒業。東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。パリ 10 区ベルリオーズ音楽院修了。青木明、野口龍、R・ギオーの各氏に師事。W・ベネット氏のマスタークラス修了。パリ UFAM 国際コンクール、シュペリウール 2 位入賞。JAL 国際線クラシックチャンネルに出演。アンサンブル「トレス・ソーニョス」のメンバーとしてニカラグア大使館後援のもとに、サントリーホール、東京オペラシティ等での演奏会に出演。

山田岳（ギター）

►中学生のときジミ・ヘンドリクスに憧れギターを始める。その後ブルースやヘヴィメタル、プログレ、クラシック、古楽などに傾倒。近年の活動領域はギターほか声や自作楽器を用いたパフォーマンス、演劇、ダンス、インスタレーション制作など多岐にわたる。第 9 回現代音楽演奏コンクール“競楽 IX”第 1 位、第 20 回朝日現代音楽賞。第 75 回文化庁芸術祭レコード部門優秀賞、第 76 回文化庁芸術祭音楽部門大賞、第 21 回佐治敬三賞を受賞。

増本竜士（フルート）

►東京藝術大学卒業後、文化庁在外派遣研修生として渡欧。ジュネーブ・ストラスブール・パリ市立の各音楽院修了。第 8 回日本フルートコンクールびわ湖第 3 位・オーディエンス賞。第 8 回現代音楽演奏コンクール競楽 VIII 第 1 位・聴衆賞。第 13 回日本フルートコンベンションコンクールピッコロ部門第 1 位。関西フィルハーモニー管弦楽団特別契約首席奏者を経て、オーケストラジャパン団員・同志社女子大学嘱託講師。

田中香織（クラリネット）

►国立音楽大学、バーゼル市立音楽院音楽大学卒業。第 78 回日本音楽コンクール第 1 位、第 2 回ジャック・ランスロ国際クラリネットコンクール第 2 位、第 3 回トリノ国際音楽コンクール第 2 位。バーゼル響、バーゼル室内管、東京交響楽団、東京フィル、九州交響楽団等、国内外のオーケストラと共演。10 年に渡るヨーロッパでの活動を経て 2014 年秋に帰国し、現在はソロ・室内楽の分野で活動中。国立音楽大学講師、元バーゼル音楽院音楽大学講師。

亀井庸州（ヴァイオリン）

► 2000 年ごろから主に同世代の作品初演を中心に活動を開始。2005 年よりベルギー王立リエージュ音楽院において、欧州の 20 世紀音楽や即興演奏を学んだ。2007 年より帰国後も引き続き同世代の作品初演活動に携わる。個人企画のほか、東京オペラシティ音楽財団、サントリー芸術財団、みなとみらいホール等の主催公演に出演し、内外の作曲家による室内楽、ソロ作品の初演、再演を中心として活動している。これまでに初演した作品は 100 曲あまり。

松本卓以（チェロ）

►東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。福島賞受賞。藝大定期にてサン＝サーンスのチェロ協奏曲を協演。バロックから現代まで精力的に演奏活動を展開しており、特に現代音楽の分野ではこれまでに 450 曲を超える初演を行ってきた。クァルテット・アルモニコ、Ensemble Contemporary α、アンサンブル東風、小松亮太＆オルケスタティピカのメンバー。アンサンブルノマドレギュラーゲスト。東京藝術大学及び附属音楽高校非常勤講師。

大須賀かおり（ピアノ）

►桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、同大学アンサンブルディプロマコース修了。第9回日本室内楽コンクール第 2 位。第5回現代音楽演奏コンクール競楽 V 優勝、第 12 回朝日現代音楽賞、青山バロックザール賞受賞。2020 年コジマ録音よりリリースしたアイヴズのソナタ全集が第75 回文化庁芸術祭レコード部門優秀賞を受賞。日仏現代音楽協会、日本・フィンランド新音楽協会会員。桐朋学園芸術短期大学、東京成徳短期大学、相模原弥栄高校芸術科非常勤講師。

篠﨑史子（ハープ）

►桐朋学園大学卒業。アメリカ、その後、西ベルリン、パリ（1974 年文化庁在外研修員）に留学。J . モルナール、M . グランジャニー、L. ラスキーヌの各氏に師事。1970 年イスラエル国際ハープ・コンクール 3 位入賞。1972 年より「篠﨑史子ハープの個展」を開催。平成 13 年度芸術祭優秀賞、第 20 回中島健蔵音楽賞、サントリー芸術財団第 1 回佐治敬三賞、2005 年日本現代芸術振興賞、第 17 回朝日現代音楽賞、平成 24 年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成 25 年紫綬褒章。東京音楽大学客員教授、桐朋学園大学音楽学部特命教授。

田嶋直士（尺八）

►直簫流を創設、宗家。東京、大阪に教授所を設けている。年 2 回東京、大阪でのリサイタルは 78 回を超え、各地でリサイタル・コンサート活動、400 ヶ所を超す本曲全国行脚を継続。ザルツブルグ音楽祭、バッハ国際音楽祭等、世界の音楽祭より招待を受け海外公演は 25 カ国を超える。三度の文化庁芸術祭賞、パンムジークフェスティバル邦楽演奏コンクール 1 位・大賞、ドイツ大使館賞受賞。バッハ国際音楽祭でソリストとして細川俊夫の協奏曲初演。日本を代表する尺八演奏家として評価を受けている。

植木昭雄（チェロ）

►桐朋学園大学、リヨン国立高等音楽院、インディアナ大学でチェロを学ぶ。日本室内楽コンクール入賞、日本音楽コンクールチェロ部門入選。第一回斎藤秀雄メモリアル基金賞受賞。数々のオーケストラに客演主席として出演している他、ソロ、室内楽を中心に、サイトウキネン・オーケストラ、Trio Espace、加古隆クァルテットのメンバーとしても活躍中。チェロを松波恵子、イヴァン・シフォロー、堤剛の各氏に師事。

村田厚生（テナー・トロンボーン）

►桐朋学園大学音楽学部卒業。ドイツ学術交流会（DAAD）給費留学生としてベルリン芸術大学卒業。内外の主要な現代音楽祭に出演。モーションセンサーとリアルタイム・エフェクト、またグロボカール作品に焦点をあてたシリーズリサイタルを継続中。ユニット「コンテンポラリー・デュオ 村田厚生＆中村和枝」ではドイツ、スイス5都市でリサイタルを行った。桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。
ウェブサイト www.sonata.jp

西岡　基（テナー・トロンボーン）

►東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、及び同大学卒業。第１回日本トロンボーンコンペティション第２位、第１回大阪トロンボーンコンペティション、四重奏部門第３位（1.2 位なし）入賞。音楽祭等は WASBE、PMF、プレザンス音楽祭（パリ）、ガウデアムス音楽週間（オランダ）、アテンポ音楽祭（ベネズエラ）、アレキサンドリア CPMB（エジプト）等に出演。東京シンフォニエッタ、東京トロンボーンアーティスツ各メンバー。日本トロンボーン協会常任理事。

飯田智彦（バス・トロンボーン）

►東京藝術大学在籍中バストロンボーンに転向。第 13 回日本トロンボーン協会コンペティション奨励賞。第５回関西トロンボーン協会コンクール第２位。G. ミリエール、J. アレッシ、P. ミルナー、M. ベッケ、J.v. ライエン、J. マーキー各氏のマスタークラス受講。スカラ座、トリノ王立歌劇場、ローマ歌劇場等来日公演参加。Trombone Quartet 虎徹 Kotetsu、東京トロンボーン・オーケストラ各メンバー。Blitz Philharmonic winds トロンボーン奏者。

矢澤結希子（ヴァイオリン）

►長野県長野市出身。これまでヴァイオリンを吉川朝子、村岡陽子の各氏、現在篠崎功子に師事。長野県小諸高等学校音楽科を卒業後、現在桐朋学園大学２年在学中。

石川倫歌（ヴァイオリン）

► ５歳よりヴァイオリン、６歳よりピアノとソルフェージュを始める。那須ジュニアクラシック音楽コンクールにおいて入選。桐朋学園大学音楽学部に進学後、杉並公会堂、築地本願寺などで開催されたコンサートにオーケストラメンバーとして多数出演。鹿島学園高等学校の音楽実習で演奏助手を務める。これまでにヴァイオリンを小倉由美、小倉達夫、山瀬理桜、田中晶子、木野雅之の各氏に師事。ピアノを古澤幹子、佐々木京子、山瀬珠真子、小澤英世の各氏に師事。

加藤星南（ヴィオラ）

►千葉県出身。桐朋学園大学卒業。2019 年、東京・春・音楽祭リッカルド・ムーティによる「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」参加。PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)2022 オーケストラアカデミー生。フィリアホール室内楽アカデミア第４期修了生。第８回みおつくし音楽祭大阪クラシックコンクール第１位及び大阪府知事賞受賞。洗足学園音楽大学演奏補助要員。現在、オーケストラ、室内楽、アウトリーチなど様々な地域で幅広く活動中。

小野口紗（チェロ）

► ９歳よりチェロを始める。京都市立京都堀川音楽高等学校を経て、現在桐朋学園音楽学部２年に在学中。第 74 回全日本学生音楽コンクールチェロ部門地区大会第２位。2019 年、高校在学中にイギリスで行われたアボインチェロフェスティバルに参加。RebeccaGilliver 氏に師事。これまでにチェロをドミトリーフェイギン、林良一、雨田一孝、長谷川陽子の各氏に、室内楽を藤原浜雄、銅銀久弥、木野雅之、清水醍輝の各氏に師事。

特定非営利活動法人日本現代音楽協会（国際現代音楽協会日本支部）入会のお誘い

日本現代音楽協会（通称 現音）は 1930 年に「新興作曲家連盟」として発足し、以来、音楽文化の創造と、作曲家の社会的地位の確立を目的として、創作の振興、現代音楽の普及、現代音楽の国際交流、人材の育成等を推進してきました。また、50 を超える国や地域に支部を持つ世界唯一の作曲家の団体「国際現代音楽協会（ISCM）」の日本支部としての活動も行っており、毎年、各支部持ち回りで開催される〈世界音楽の日々〉音楽祭でも日本支部が推薦した作品が入選・上演されています。

現代の日本では、クラシックの演奏活動が注目を浴びている一方で、現代の芸術音楽の創造に対する一般の関心は、残念ながら決して高くありません。そのために、現代日本の作曲家たちの旺盛な創造力が次々と新しい音楽を生んでいるにも拘らず、それらの作品の演奏者や聴衆への普及が著しく滞っています。

こうした現状を受けて、現代音楽作曲家の創造を刺激・促進し、同時に、演奏家と聴衆の関心を高める活動を積極的に行うことが不可欠だと考え、2019 年 4 月、特定非営利活動法人として新たな一歩を踏み出しました。法人化に伴い、**作曲家ではない方も会員となることが可能になりました**。これまでの経験を踏まえ、作曲家の創作支援を基盤にしつつ、できるかぎり広範な演奏家と聴衆との協同を図り、より公益性の高い活動を推進し、現代の音楽文化発展により効果的に寄与すべく、より広く活動を行っていきます。

芸術音楽分野の作曲で活躍を目指している若手作曲家の皆さん、すでに作曲活動を積み上げてこられながらも、さらなる活動の場の拡大や、国内外の現代音楽の情報の共有に必要性を感じておられる作曲家の皆さん、そして同時代の芸術音楽を愛好する皆さん、特定非営利活動法人日本現代音楽協会（現音）に入会しませんか。どうぞ、私たちと一緒に現代の芸術音楽シーンを支え、盛り上げる仲間になってください。

▼会員の種類

◉正会員（年会費4万円／36歳以上）

主催演奏会やレクチャーなどに無料で入場できるほか、総会等会議での議決権、理事等役員選挙の選挙権、被選挙権などを得られるほか、会報やメールマガジンなどをお送りします。

◉ユース正会員（年会費2万円／35歳以下）

会費以外は上記の正会員と同様。年度更新時（4 月 1 日）の年齢が 36 歳に達していた時点でユース正会員の資格は終了し、自動的に正会員に移行します。

□会友（年会費1万円）

主催演奏会やレクチャーなどに無料で入場できます。

作曲作品発表資格について

協会主催・共催する演奏会等において自作品の発表を希望する会員には「作曲作品出品資格認定審査」を設けています。正会員、ユース正会員のみが審査を受けることができ、以下の提出物が必要です。

・所定の申込書

・自作の作品スコア 2 曲以上、楽譜がない作品の場合には、音源等。できるだけ編成の違うものが望ましい。

・作品が演奏された公開演奏会のチラシ等のコピー

審査は審査委員会が行い、審査委員会は理事全員によって構成されます。一度資格が認定されると、在籍中、同資格は自動的に継続されます。

■お申込み・お問い合わせ・資料お取り寄せ

特定非営利活動法人日本現代音楽協会　〒141-0031 東京都品川区西五反田7-19-6-2F
TEL：03-6417-0393　FAX：03-6417-0394
e-mail：gen-on1930@jscm.net　web：www.jscm.net

〈現音 Music of Our Time 2022〉

フォーラム・コンサート 第2夜

2022年11月25日［金］18:30開場 19:00開演

東京オペラシティリサイタルホール

1 **大平泰志／ダンテスダイジの詩による二つの歌曲**
作曲2022年／初演
根本真澄（ソプラノ）宮野尾史子（ピアノ）

2 **楠　知子／組曲 気候変動IV 静と動 ──Piano&Digital Windのための**
作曲2022年／改訂2022年／改訂初演
楠知子（ピアノ）＋サウンド再生

3 **桃井千津子／Go Down the Rabbit Hole**
作曲 2022 年／初演
鈴木茜（フルート）筒井紀貴（ピアノ）

──休憩──

4 **堀切幹夫／メディテーション**
作曲 2007 年／初演
豊田庄吾（チェロ）高木早苗（ピアノ）

5 **木下大輔／ゆがんだ十字架のヴァリアント ──ピアノ独奏のための──**
作曲 2008 年
堀江真理子（ピアノ）

6 **露木正登／クラリネット・ソナタ第3番（嘆きの歌）**
作曲 2022 年／初演
鈴木生子（クラリネット）及川夕美（ピアノ）

7 **河内琢夫／《夕闇のかなたに》～マリンバ独奏のための**
作曲 2019 年／改訂 2022 年／改訂初演
高橋治子（マリンバ）

gen-on Music of Our Time 2022

Forum Concert 2

Friday 25 November 2022, 19.00
Tokyo Opera City Recital Hall

OHIRA Taishi/ two songs from dantesdaiji's poems 1
2022, premiere
NEMOTO Masumi, *soprano* MIYANOO Fumiko, *piano*

KUSUNOKI Tomoko 2
Ⅳ stillness and dynamics from Climate Change for Piano&Digital Wind
2020, rev.2020, premiere
KUSUNOKI Tomoko, *piano* *with audio data*

MOMOI Chizuko/ Go Down the Rabbit Hole 3
2022, premiere
SUZUKI Akane, *flute* TSUTSUI Noritaka, *piano*

— Intermission —

HORIKIRI Mikio/ Meditation 4
2007, premiere
TOYODA Shogo, *violoncello* TAKAGI Sanae, *piano*

KINOSHITA Daïsuké/ Variants of Deformed Cross : for piano 5
2008
HORIE Mariko, *piano*

TSUYUKI Masato/ Clarinet Sonata No.3 (A Song of Sorrow) 6
2022, premiere
SUZUKI Ikuko, *clarinet* OIKAWA Yumi, *piano*

KOCHI Takuo/ "Beyond the dark" for Marimba solo 7
2019, rev.2022, premiere
TAKAHASHI Haruko, *marimba*

1

大平泰志
ダンテスダイジの詩による二つの歌曲

作曲 2022 年／初演

OHIRA Taishi
two songs from dantesdaiji's poems
2022, premiere

禅者であり、最終解脱者でもある、ダンテスダイジの詩に曲を付けました。

性と死というコインの表裏のような関係にある2つの主題を選びました。

「性愛」はエロスを通じた悟りに関する詩であり、「いつ死んでもいい」はより人生的な悟りに関する詩である。

Profile ► 日本現代音楽協会会員。第 24 回 TIAA 全日本作曲コンクール審査員賞、第 25 回入選、第 26、27、28 回奨励賞。広島大学名誉教授三好啓二先生に師事。第二回 k 作曲譜面審査コンクール優秀賞、第三回3位。第 13 回フィデリオ作曲コンクール 6 位、第 9 回、10 回東京国際歌曲作曲コンクール入選。

2

楠　知子
組曲 気候変動Ⅳ 静と動
──Piano&Digital Wind のための

作曲 2022 年／改訂 2022 年／改訂初演

KUSUNOKI Tomoko
Ⅳ stillness and dynamics
from Climate Change for Piano&Digital Wind
2022, rev.2022, premiere

コロナワクチンの開発で人類の壊滅的危機は回避されたのも束の間、春には、メディアによって、東欧の紛争が連日報道された。私も微力ながらと、思いを馳せ、自宅でその国歌のメロディーに伴奏をつけてみた。すると、哀愁を帯びた短調と長調の未分化のものが聞こえる。その国民は、世界各地に避難している。(A) この思いを現代曲にしてみた。(B) 一方日常はコロナ節制の持続によりイベントの中止、交通量の減少、そして温暖化による雨量の増加で、晴れた日はとくに美しい。メディアを知らない幼児たちは喜々として遊び回る。曲は ABA の 3 部形式で、デジタルの Recorder と Tuba とアナログ的な Piano によるアンサンブルとなる。

Profile ► 東京藝術大学作曲科卒業。作曲を池内友次郎、矢代秋雄、佐藤眞、永富正之、原博の各氏に師事。ピアノを石澤秀子氏、現在は岡本暁子氏に師事。日本音楽集団研究団員修了。インディアナ大学大学院作曲科他留学。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会会員。日本音楽著作権協会信託者。ガウディアムス国際コンクールオーケストラ部門、室内楽部門入選。現音 60 周年記念事業の（女性作曲家の夕べ）に（遷 II）を出品、その記念事業の出品者の団体の一員として、音楽之友社賞を受賞。

3

桃井千津子
Go Down the Rabbit Hole
作曲 2022 年／初演

MOMOI Chizuko
Go Down the Rabbit Hole
2022, premiere

タイトルは『不思議の国のアリス』が由来の慣用句である。“Hole”はフルートの歌口を連想させることから、奏者によってそれが塞がれ、ウサギから連想される時計の音も加わって終わる本作品は物語の想像も可能ながら「異なる状況」がテーマとなる。曲は3つに分かれ、賛美歌風（過去）、フーガ風（現在）、舞曲風（未来）の雰囲気をもつ。作曲者が決めた旋法の使用により、各曲の音響は想像通りであるうえに、冒頭の短三和音は現代音楽では違和感しかない。それも含め「ドリア」は記憶の薄れ、「オクタトニック2種」はコロナ渦の最中、「完全4度の連続も含むペンタトニック5種」で未来を予想、これらを順列による（小節ごとの）使用音で「異なる状況」の表現を試みた。3曲の共通項はパット・メセニーグループ代表作のひとつ“The First Circle”のリズム（3+2+3+2+2）（3+3+2+2）とその裏拍の使用であるが、拡大、縮小をはじめ、ジャンルや使用楽器、使用音も全く異なるため、原曲の雰囲気はない。

このたび、演奏を快く引き受けてくださった鈴木茜さん、筒井紀貴さんに感謝し、また会場や配信で聴いてくださる方にも厚くお礼申し上げます。

Profile ► 国立音楽大学大学院作曲専攻修了、同大学院博士後期課程単位取得満期退学。旋法間の関係を叙述する分析概念の執筆や発表、最近ではクラシック音楽の魅力を伝えるティーチング・アーチストへの助演、作曲、編曲ほか、学校や公共施設に生演奏を届ける活動などがある。日本現代音楽協会、日本音学会、各会員。

4

堀切幹夫
メディテーション
作曲 2007 年／初演

HORIKIRI Mikio
Meditation
2007, premiere

短い間だったけれど、共に生活をした女性との思い出がある。属九の和音（それは彼女の豊かな肉体の響きだ）をベースに、8 分の 12 拍子のゆったりした波形の Pf にのって、親しくも甘えるように、Vc が歌われる。途中 Vc のトレモロにのって、高音域で明るく輝くが、また Pf のオブリガートを付けて Vc の甘えるテーマ、盛り上がり、Vc の反復音の上、Pf が高々と頂点を極める。トリルをまじえて次第にしずまり、次の段階は、やや空想的ヴィジョン的哀願。せめいだ後に 16 分音形が出て、Pf のアルペジオにのって、彼女の素直な心のテーマが、Vc に出る。盛り上がり、16 分音形が拡散して、第 2 のセクションである。Pf のオスティナートにのって、さまざまに Vc が飾る。Vc にオスティナートがうつり、Pf もからまり盛りあがった所で、Pf のトレモロ上に Vc で彼女の甘えるテーマが強奏される。静まって行き第 3 の部分は 4 分の 4 拍子、Adagio だ。瞑想的な平和な和音が、静かに響く。Vc のモノローグがゆっくり上昇した所で Pf の右手に波形、左手にもっと大きな波形が出てささえ、Vc がその和声をかえて甘えるテーマを 3 回歌い、後楽節を 2 回で静まり、歌い終える。Pf が彼女の肉体の響きを全音域にわたって響かせ、Vc がハーモニックスできめて 13 分のメディテーションは終わる。

Profile ► 1953 年、東京生まれ。1968 年、清瀬保二氏に師事。1978 年、病のため東京藝大中退。

5

木下大輔
ゆがんだ十字架のヴァリアント
──ピアノ独奏のための──

作曲 2008 年

KINOSHITA Daïsuké
Variants of Deformed Cross : for piano
2008

鋸刃のごとくジグザグに上下する 4 音の音型を、音楽修辞学で「十字架の音型」と呼ぶ。この作品ではシ／ド♯＼ソ／シ♭の音型を用いる。この 4 音は音程関係がシンメトリーではない。すなわち「ゆがんだ十字架」。曲は、この音型にもとづく主題と、その自由な性格変奏 6 篇（1. 荒々しい点描と憂鬱な旋律、2. スケルツァンド、3. レチタティーヴォ、4. 甘美な子守歌、5. フーガ、6. 力強いコーダ）から成る。

Profile ►横浜市出身。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。尾高惇忠氏に師事。日本の音楽展作曲賞、奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門など受賞・入選歴多数。作品は、アジア作曲家連盟音楽祭をはじめ国内外各地で頻繁に演奏されており、カワイ出版、音楽之友社などより楽譜出版、CD 発売。2016・2017 年に個展演奏会を開催。東アジア国際現代音楽祭招待作曲家。現在、日本教育大学協会全国音楽部門代表、宇都宮大学教授。

主要作品 ►夏のソナティナ（Ob,Pf）、24 の抒情的小品（Pf）、夢のみち（Mix-cho,Pf ／詩：桑原茂夫）、現代の秋（Pf）、瓦解の宴（Fl,Cl,Bn）、影（Vib,Perc）、音楽の旅（Pf 連弾曲集）、晴れた日の記憶（Cl,Pf）、追分（Vc）、弦楽三重奏曲、三つの女の歌（Sop,Pf ／詩：吉原幸子、新川和江）、偏西風（Mar）、夏の旅（歌曲集／詩：立原道造）、ほか。CD『こだま号で行こう！木下大輔ピアノ作品集』Pf：堀江真理子、前田拓郎（ナミ・レコード WWCC-7964）好評発売中。

6

露木正登
クラリネット・ソナタ第３番（嘆きの歌）
作曲 2022 年／初演

TSUYUKI Masato
Clarinet Sonata No.3 (A Song of Sorrow)
2022, premiere

2022 年 6 月から 10 月末にかけて作曲。

クラリネット奏者・鈴木生子さんのために 2019 年から書き始めた「クラリネット・ソナタ」シリーズの第 3 作目である。

曲はクラリネット独奏によるプロローグとエピローグを伴った 3 つの楽章により構成され、プロローグと第 1 楽章、および第3楽章とエピローグは続けて演奏される。

クラリネットはA管が使われ、A管ならではの表現力と深みのある音色を生かことに腐心したつもりである。

なお、サブタイトルについてはとくに深い意味はない。主要楽想が（ため息を表現する）2 度下行を特徴としていることや、第 3 楽章の冒頭部分で奏されるクラリネットのラメント音型がジョン・ダウランド（1563-1626）の有名な「流れよ、わが涙」の冒頭部分の音型と一致することから、サブタイトルを「嘆きの歌」とした。

また、サブタイトルに「歌」という言葉を含むことで、昨年のフォーラムで初演した《無言歌集》との内的関係を示している。

いつも拙作の初演を引き受けてくださる鈴木生子さんと及川夕美さんには心から感謝いたします。

Profile ►第 6 回朝日作曲賞（吹奏楽）受賞。第 3 回国立劇場作曲コンクール佳作。第 12 回吹田音楽コンクール作曲部門第 3 位入賞。《交響的譚詩（1995）》と《「かごめかごめ」の主題による幻想曲（2005）》の2つの作品がティーダ出版から、《トリプティーク～サクソフォン四重奏（2015）》がブレーン（株）から出版されている。

7

河内琢夫
《夕闇のかなたに》～マリンバ独奏のための

作曲 2019 年／改訂 2022 年／改訂初演

KOCHI Takuo
"Beyond the dark" for Marimba solo
2019, rev.2022, premiere

2020 年 4 月に開催された高橋治子マリンバ・リサイタルで初演された《黄金のトナカイ》～独奏マリンバのための 2 つのペトログリフスのなかの 1 曲であるこの作品は北海道小樽にほど近い余市町にあるフゴッペ洞窟の古い壁画に触発されて作曲。この壁画の作者はアイヌ以前の人々と考えられており、当時の人々の姿が活き活きと描かれている。私が初めて小樽近郊を訪れたのはある冬の寒い夕暮れ時だったが、曲のタイトルと全体のムードはその時の心象風景でもある。かつてその地で確かに生き、やがて黄昏の彼方へと去っていった人々に捧げる悲歌。

Profile ► 洗足学園大学音楽学部（現洗足学園音楽大学）作曲専攻卒業後、同大学専攻科修了。作曲を宍戸睦郎氏に師事。第 3 回 Music Today 国際作曲コンクール（企画構成：武満徹）入選、ISCM World Music Days（ルーマニア）入選。2021 年 12 月「河内琢夫の音楽 / 室内楽作品個展 III」を開催、ライヴ CD がエコ・アース・レコーズより現在発売中。

出演者プロフィール

根本真澄（ソプラノ）

►福島県出身。郡山女子大学附属高等学校音楽科ヴァイオリン専攻卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、同大学別科卒業。大学卒業時に同声会賞受賞。市川市文化振興財団第２回即興オーディション最優秀賞受賞。日本演奏家コンクール第２位。マルゲリータグリエルミ声楽コンクール一般部門第３位。NPO 法人芸術・文化若い芽を育てる会助成金審査会奨励賞及び音楽賞受賞 (第１位)。声楽を高橋啓三、平松英子、高橋達也、アンナ＝マリア・パーマー各氏に師事。

宮野尾史子（ピアノ）

►桐朋学園大学、米国ハート・スクール・オブ・ミュージック音楽院修士課程修了。米国内で「パワーピアノ」の異名を取る。米国内でニューヨーク市他カリフォルニア州、フロリダ州等、又ベルギー、オランダ等で現代音楽祭等に出演。大学等で若い作曲家たちの作品の初演も行う。レパートリーはソロ他、バロック通奏低音から近代、現代の室内楽、歌曲、即興、タンゴ等。またバレエや舞踏、能謡とのコラボレーション等、活動はユニーク。

楠　知子（ピアノ）

► P.16 をご覧ください。

鈴木　茜（フルート）

►国立音楽大学演奏科を経て、同大学院修士課程および博士後期課程修了。作曲家・S. カルク＝エラートの研究で博士号を取得。2013 年 DAAD 奨学生としてドイツ・ライプツィヒへ、2014 年協定留学生としてドイツ・カールスルーエへ留学。第 15,16 回びわ湖国際フルートコンクール入選、第 38 回フルートデビューリサイタル出演。これまでに大友太郎、佐久間由美子、大木淳子、R. グライス＝アルミンの各氏に師事。現在、桜美林大学、国立音楽大学講師。

筒井紀貴（ピアノ）

►早稲田大学政治経済学部卒業、武蔵野音楽大学大学院修士課程およびウィーン国立音楽大学ポストグラデュアル課程を修了。国際ロータリー財団奨学生・文化庁新進芸術家海外派遣研修員として渡独し、ドイツ国立トロッシンゲン音楽大学大学院リート伴奏科修士課程およびドイツ国家演奏家資格課程を修了、同資格を取得。ドイツ内外の演奏会に主に伴奏者として出演。帰国後、国立音楽大学大学院博士後期課程にて博士号を取得。現在、東京藝術大学演奏藝術センター教育研究助手。

豊田庄吾（チェロ）

►長野県出身。４歳よりスズキ・メソードにてチェロを始める。東京藝術大学卒業。小沢征爾音楽塾オペラプロジェクト、赤穂音楽祭、等に出演。これまでにチェロを北口大輔、上森祥平、河野文昭の各氏に師事。室内楽を松原勝也、山崎伸子、岡山潔の各氏に師事。現在、藝大フィルハーモニア管弦楽団チェロ奏者。

高木早苗（ピアノ）

►都立芸術高校、東京藝術大学卒業、ミュンヘン音楽大学大学院マイスタークラス修了。全日本学生音楽コンクール、ピティナピアノコンペティションG級等入賞、霧島国際音楽祭奨励賞。ドイツ帰国後、定期的なソロリサイタル、新曲初演、室内楽、オケ中鍵盤等のコンサート活動を行うほか、コンクール審査を務めるなど後進の指導に力を注いでいる。現在、都立総合芸術高校音楽科講師。

堀江真理子（ピアノ）

►東京藝術大学在学中に渡仏、パリ国立高等音楽院、並びに同音楽院 第三課程（大学院博士課程）を修了。ソリスト、室内楽奏者として幅広い活動を展開。大正・昭和初期の邦人作曲家の作品による CD《1900 年 啓かれた日本のピアノ》、ライヴ録音による CD《フランス音楽黄金期の至宝》は各誌で高く

評価されレコード芸術特選盤になる。またピアノ・ペダリングの教則本を多数執筆し、全国で反響を呼んでいる。尚美学園大学名誉教授、国際ピアノデュオ協会会長。

鈴木生子（クラリネット）

►桐朋学園大学音楽学部附属子供のための音楽教室を経て、東京都立藝術高校、東京藝術大学音楽学部卒業後、マンハッタン音楽院にて修士号、アムステルダム音楽院にてバスクラリネット修士号を修了。霧島音楽祭にて、奨励賞、グローバルユース賞を受賞。アンサンブル・コンテンポラリー・α、オブロークラリネットアンサンブル、NY リコリッシュアンサンブルのメンバー。東京都立総合芸術高等学校講師。フェルデンクライスメソッドプラクティショナー。

及川夕美（ピアノ）

►東京藝術大学附属高校及び同大学器楽科を卒業。97 年の“競楽”で第三位受賞。アンサンブルコンテンポラリーα、アンサンブル東風のメンバーとしてアジア作曲家連盟音楽祭、大邱国際現代音楽祭、統営音楽祭、女性作曲家連盟音楽祭、オランダガウデアムス現代音楽週間など国内外の多くの音楽祭に出演、秋渓藝術大学（ソウル）、紹興文理学院（中国）でレクチャーを行う等、アジアを中心に活動を行う。東京成徳短期大学非常勤講師。

高橋治子（マリンバ）

►武蔵野音楽大学大学院博士後期課程単位取得。2015 年より王子ホール、ハクジュホール、トッパンホール等都内にて定期的にマリンバ・リサイタルを開催。第 1 回国際打楽器フェスティバルにおける国際打楽器コンクール（イタリア）・マリンバ部門第1位、第 16 回 JILA 音楽コンクール・マリンバ部門第 2 位入賞。マリンバを高橋美智子、明神あけみ、打楽器を岡田全弘、加藤博文の各氏に師事。現在、武蔵野音楽大学、及び同大学附属高等学校、同大学附属音楽教室各講師。

〈現音 Music of Our Time 2022〉

第39回現音作曲新人賞本選会

テーマ：弦楽アンサンブル

2022 年 12 月 5 日［月］
18:30 開場 19:00 開演
東京オペラシティリサイタルホール

▼第1部 第39回現音作曲新人賞本選会

1 **吉田翠葉／ Rrrrrr...**
作曲 2022 年／初演
佐藤まどか（ヴァイオリン）甲斐史子（ヴィオラ）松本卓以（チェロ）土橋庸人（ギター）

2 **井上莉里／ブラウンノイズ ～2台のヴィオラと2台のチェロのための～**
作曲 2022 年／初演
安藤裕子（ヴィオラ）甲斐史子（ヴィオラ）松本卓以（チェロ）山澤慧（チェロ）

3 **徳田旭昭／ Roots by Arcangelo Corelli**
作曲 2022 年／初演
松岡麻衣子（ヴァイオリン）安藤裕子（ヴィオラ）山澤慧（チェロ）

4 **中村俊大／でぃすこみゅ:Statement**
作曲 2022 年／初演
佐藤まどか（ヴァイオリン）甲斐史子（ヴィオラ）松本卓以（チェロ）山澤慧（チェロ）

――休憩――

▼第2部 日本現代音楽協会会員作品上演

5 **中辻小百合／ Tactics for Violin and Violoncello**
作曲 2022 年／初演
佐藤まどか（ヴァイオリン）松本卓以（チェロ）

6 **赤石直哉／ Adagietto for String Trio**
作曲 2022 年／初演
松岡麻衣子（ヴァイオリン）安藤裕子（ヴィオラ）山澤慧（チェロ）

7 **山内雅弘／螺旋の記憶Ⅱ ～2つのヴィオラのための**
作曲 2021 年
安藤裕子・甲斐史子（ヴィオラ）

▼現音作曲新人賞審査結果発表

第1位　第 39 回現音作曲新人賞（賞状・賞金 15 万円）

◎審査員：森垣桂一（審査員長）斉木由美　福士則夫

gen-on Music of Our Time 2022

The 39th JSCM Award for Composers, Final stage

Theme: String Ensemble

Monday 5 December 2022
19.00
Tokyo Operacity Recital Hall

▼PART 1 The 39th JSCM Award for Composers, Final Stage

YOSHIDA Suiha/ Rrrrrr... 1
2022, premiere
SATO Madoka, *violin* KAI Fumiko, *viola*
MATSUMOTO Takui, *violoncello* TSUCHIHASHI Tsunehito, *guitar*

INOUE Riri/ Brown Noise - For 2 violas and 2 cellos - 2
2022, premiere
ANDO Yuko, KAI Fumiko, *viola* MATSUMOTO Takui, YAMAZAWA Kei, *violoncello*

TOKUDA Teruaki/ Roots by Arcangelo Corelli 3
2022, premiere
MATSUOKA Maiko, *violin* ANDO Yuko, *viola* YAMAZAWA Kei, *violoncello*

NAKAMURA Toshihiro/ Dis-commu : Statement 4
2022, premiere
SATO Madoka, *violin* KAI Fumiko, *viola*
MATSUMOTO Takui, YAMAZAWA Kei, *violoncello*

— Intermission —

▼PART 2 Pieces by JSCM Composers

NAKATSUJI Sayuri/ Tactics for Violin and Violoncello 5
2022, premiere
SATO Madoka, *violin* MATSUMOTO Takui, *violoncello*

AKAISHI Naoya/ Adagietto for String Trio 6
2022, premiere
MATSUOKA Maiko, *violin* ANDO Yuko, *viola* YAMAZAWA Kei, *violoncello*

YAMAUCHI Masahiro/ Memory of Spiral II for 2 Violas 7
2021
ANDO Yuko, KAI Fumiko, *viola*

▼results announcement

The 1st prize = The 39th JSCM Award for Composers: JPY 150,000
Jury: MORIGAKI Keiichi (head) SAIKI Yumi FUKUSHI Norio

〈現音 Music of Our Time 2022〉

第39回現音作曲新人賞本選会
テーマ：弦楽アンサンブル

The 39th JSCM Award for Composers, Final stage

ご挨拶

審査員長：森垣桂一

弦楽器のアンサンブルには、古来数多くの優れた作品が存在します。それは作曲家達が、この編成で様々なチャレンジを常に重ねてきたことにより、各時代独特の魅力を持つ作品を誕生させたからだと考えられます。現在を生きる作曲家の皆様にも「弦楽器のアンサンブルで、21 世紀らしい新たな魅力を持つ作品を作曲する」ことに挑戦していただきたく、今回のテーマを「弦楽器のアンサンブル」といたしました。

応募は 34 作品となりました。伝統的なスタイルから前衛的なものまで様々な作品の応募があり、その多くが力作であったと言えます。弦楽器の奏法と音色の探究、楽器の組み合わせへの試み、空間定位とパフォーマンス等の新たなアプローチに、新しい音楽を作り出そうという若い作曲家達の情熱が感じられました。

本日は、その中から特に優秀な 4 作品を、入選作品として演奏いたします。

演奏をしていただく皆様は、現代音楽の第一線で輝きを持って活躍なさっている方々です。入選者にとって、彼らとのリハーサルと本番は得難い経験となるに違いありません。演奏を引き受けてくださった演奏家の皆様には心から感謝を申し上げます。

また第２部の演奏会では、現音会員の中辻、赤石、山内各氏の「弦楽器のアンサンブル」作品が演奏されます。三氏の作品にも、是非ご期待ください。

1

吉田翠葉
Rrrrrr...

作曲 2022 年／初演

YOSHIDA Suiha
Rrrrrr...
2022, premiere

今回のテーマに書かれていた「新たな魅力を持つ作品」のために弦楽器が誕生した時代から現代の音楽にある共通項をまず考えた。私が注目したのは繰り返しと世界共通語という点である。あらゆる文化の音楽の中で、リズム、メロディ、形式など様々な繰り返しが存在し、音楽に欠かせないものとなっている。また西洋で誕生した五線譜表記は現在世界のスタンダードであり、言葉が通じずとも歌ったり楽譜を読んだりすることで成り立つという点で音楽は世界共通語と言える。そこでモールス信号と点字を利用し、英語、フランス語、日本語の「繰り返し」という単語のみを用いて新たな繰り返しの音楽を作ることを試みた。点字はどの言語も６つの点を基本としていること、モールス信号は航海の通信に使われる言語として世界共通であるとみなした。イソリズムを参考にし、３単語から導いたリズムを発展させて繰り返し用いることで曲を展開し、和声においても１つの核和音から全て派生させ構成した。

Profile ► 愛知県立芸術大学大学院博士前期課程修了。小林聡羅、久留智之各氏に師事。その後渡仏しストラスブール音楽院スペシャリザシオンの課程を審査員の全員一致で修了。現在ストラスブール高等音楽アカデミーで作曲をダニエル・ダダモ、電子音響音楽をトム・メイズ各氏のもとで勉学を続けている。第１回伊勢志摩国際作曲コンクールにて特別賞を受賞。IRCAM による音楽祭 ManiFeste 2022 で自作品がアンサンブル・アンテルコンタンポランによって演奏された。

2

井上莉里
ブラウンノイズ
～2台のヴィオラと2台のチェロのための～

作曲 2022 年／初演

INOUE Riri
Brown Noise - For 2 violas and 2 cellos -
2022, premiere

ブラウンノイズとは、低い周波数で厚みはあるものの柔らかい音を特徴としているノイズである。今年に入ってから、雑音と音楽の違いは何かというところに興味を持ち、オーボエソロのためのピンクノイズ、オーボエとファゴットのためのホワイトノイズを作曲し、今作品がノイズシリーズ３作目となる。ノイズというとノイズの音そのものを想像するかもしれないが、３作品ともに各ノイズの特徴を音楽に落とし込むこと、それは無機質なものが自我を持って現実の世界に飛び出てきたような感覚である。しかし、作曲するにあたりノイズ自体の特徴とも言える持続性というものは大切にし、テンポや拍子は常に一定であるがその中で様々な表情の変化があること、そして低く調弦されたヴィオラとチェロが絡み合いながら新たな音色を見出せていたら幸いだ。今回演奏してくださる皆様に心より感謝申し上げます。

Profile ► ４歳より桐朋学園「子供のための音楽教室」仙川教室入室。11 歳より副科作曲を始める。第 20 回こまば会ピアノコンクール１位。第８回横浜国際音楽コンクールのピアノ部門１位、及び月刊ショパン賞。第 28 回埼玉ピアノコンクール銅賞、第４回桐朋学園全国ジュニア音楽コンクール作曲の部最高位。第９回東京ピアノコンクール１位。第５回 K 作曲コンクール３位。桐朋学園ランチタイムコンサート等様々な演奏会に出演。桐朋学園大学ピアノ専攻、作曲副専攻を経て、現在桐朋学園大学大学院修士課程１年に特待生として在学中。ピアノを中井恒仁氏、土田英介氏に、作曲を三瀬和朗氏、金子仁美氏に師事。

3

徳田旭昭
Roots by Arcangelo Corelli

作曲 2022 年／初演

TOKUDA Teruaki
Roots by Arcangelo Corelli
2022, premiere

弦楽アンサンブルというテーマに触れることは、かつての偉大な作曲家から連綿と受け継がれる歴史との対峙を意味するのではないか。本作品は、こうした音楽的財産の引用から作曲方法をさらに掘り下げ、何らかの新たなヴィジョンを示すことを目指して書かれた。

本作品では器楽の発展に大きく貢献した 17 世紀の作曲家、A. コレッリによる旋律が引用されている。作品全体を通して E 音は骨格のような役割を果たすが、それは引用した旋律に中心音的な存在として見出されることに由来する。作品前半部は点描的で雑多な素材が置かれ、それらはアンサンブルの成立のプロセスを概観するように融合、進展する。そうした音響から必然のようにコレッリの旋律が現れると、歪な形で変容し絶頂に達する。これに対して後半部では常に線的で、スタティックな時間が鎮座する。いずれにしても、その根源的（=Roots）な部分に共通音をもち、かつ両者をパラレルなものと扱うことで、同ジャンルのパイオニア的存在であるコレッリから再構築された、ある種の提案のようなものを書き綴った。

Profile ► 岡山県出身。これまでに和声および作曲理論を熊澤住子、河添達也、齊藤武の各氏に師事。第 27 回国際芸術連盟作曲コンクール第 3 位（1 位空位）ほか受賞。武生国際音楽祭 2022 作曲ワークショップに参加（奨学生）。島根大学教育学部音楽教育専攻を卒業し、現在、岡山大学大学院教育学研究科 2 年に在籍。県内公立中学校音楽科非常勤講師。

4

中村俊大
でぃすこみゅ：Statement

作曲 2022 年／初演

NAKAMURA Toshihiro
Dis-commu : Statement
2022, premiere

ディスコミュニケーションとは、コミュニケーションに否定の接頭辞 dis を組み合わせた言葉で、さまざまな「コミュニケーション不全」の場面で用いられるが、ここでは相互不理解、というような意味で捉えたい。この作品は「ディスコミュニケーション（＝相互不理解）の音楽」の「ステートメント（＝声明）」であり、現代におけるディスコミュニケーションの種々の様相を描写しようと試みるものである。

２群のデュオからなる弦楽アンサンブルの相互関係に基づいて、応答したり衝突したりするような音響の組み合わせをつくり、それをさらにコラージュやパッチワークのようにつなぎ合わせる。弦楽器の近似的な（同時にわずかに異なっている）音響と、楽器間・デュオ間のやりとり＝（ディス）コミュニケーションによって少しずつ変化していく時間構成を試みている。

Profile ► 2000 年、長野県生まれ。2022 年、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を北爪裕道、山本裕之の各氏に師事。

5

中辻小百合
Tactics for Violin and Violoncello
作曲 2022 年／初演

NAKATSUJI Sayuri
Tactics for Violin and Violoncello
2022, premiere

タイトルは「戦術」や「駆け引き」を意味し、捕食者（食うもの、天敵）と被食者（食われるもの）との関係からインスピレーションを得て作曲した。チェロを捕食者、ヴァイオリンを被食者に見立て、両者の多様な関係性の音楽化を試みた。曲中では、特定の生き物に限定することなく、カエルに対するバッタ、鳥に対するイナゴ等、色々な生き物たちが天敵から逃れるために身につけた多種多様な戦略に焦点を当てている。様々な模様をまとったり、毒を隠し持ったり、死んだふりをして固まったり、飛ぶ力を利用したり、といった多彩な戦術からヒントを得て、音楽を展開させていった。

最後に、ご来場くださった会場の皆様、演奏してくださる佐藤まどか先生、松本卓以先生、運営の諸先生方、事務局の皆様に心より深く感謝申し上げます。

Profile ►国立音楽大学作曲学科を経て、同大学院修士課程を首席で修了、併せて同大学院研究奨学金授与。同大学院博士後期課程創作研究領域修了。博士（音楽）。第 78 回日本音楽コンクール作曲部門第 1 位受賞、併せて岩谷賞（聴衆賞）および明治安田賞受賞。これまでに作曲をトーマス・マイヤー＝フィービッヒ、福士則夫、北爪道夫の各氏に師事。現在、国立音楽大学講師。日本現代音楽協会、日本ソルフェージュ研究協議会、日本作曲家協議会、各会員。

6

赤石直哉
Adagietto for String Trio
作曲 2022 年／初演

AKAISHI Naoya
Adagietto for String Trio
2022, premiere

近年、自分の中で作曲に対する考え方というか、向き合い方が少し変わってきたと感じています。20 世紀までの淘汰型の価値観から距離を置いて、観測者の視点で音を眺めることが増えました。結果よりも過程そのものに面白さを見出すようになり、自分好みの箱庭をちまちま弄ってはニヤける、そういうお年頃なのかもしれませんが、気味が悪いです。

今作にはテーマもモティーフもありません。ただの音、音たち。これから何かになる、或いは成れの果ても聴こえた気がしました。それは可能性のスープなのか汚れた水なのか。当初全て「ラ」だけで書こうとしていましたが、あまりの怠惰を省み音が増えていきました。

Profile ►国立音楽大学作曲学科卒業、同大学院音楽研究科作曲専攻修了。作曲を佐藤眞、山口博史、トーマス・マイヤー =F、福士則夫の各氏に、ピアノを竹山悠紀子氏に師事。第 23 回現音作曲新人賞入選。第 14 回日本歌曲コンクール作曲部門最優秀賞、及び（株）全音楽譜出版社賞受賞。第 37 回ピティナピアノコンペティション新曲課題曲賞受賞（特級）、KAWAI 出版 より刊行。2014 年より作曲家団体「NEW CHAMBER MUSIC」代表。室内楽を中心に多くのコンサート 制作・運営に携わる。作曲・演奏活動の傍ら教育活動も積極的に行っており、現在、東京音楽大学、洗足学園音楽大学、国立音楽大学非常勤講師。日本現代音楽協会理事。

7

山内雅弘
螺旋の記憶Ⅱ ～2つのヴィオラのための
作曲 2021 年

YAMAUCHI Masahiro
Memory of Spiral II for 2 Violas
2021

ある時期、同じ楽器のデュオの可能性をいくつか探ったことがあった。ほとんどのアイデアがスケッチ止まりで完成に至らなかったなか、2つのヴィオラという編成は最初から手応えを感じており、いずれ必ず実現しようと思っていた編成だ。ヴァイオリンでもチェロでもない、ヴィオラでなければならないと考える理由は最初からあったのだ。2つのヴィオラは基本的に協調しつつ、DNA の二重螺旋のように絡み合いながら、いわゆるスパイラル・ポリフォニー（私の勝手な造語）によって展開する。2つの楽章に分かれ、第1楽章では第2ヴィオラは C 線と G 線を半音低く調弦している。

以上が 2021 年 6 月 5 日の「山内雅弘作曲個展」で、この曲が初演された際のプログラム・ノートである。この作品はその後、2022 年 3 月 29 日に開催された日本作曲家協議会主催「アジア音楽祭 2022 in Kawasaki」室内楽コンサートⅠで再演された。その際に第1楽章と第2楽章の間に間奏曲的な性格の新たな楽章を加え、それを最終決定稿とした。今回もその版での演奏となる。

Profile ► 1960 年仙台市生まれ。東京芸術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。クルーズ国際ピアノ会議作曲コンクール第1位、シルクロード管弦楽作曲コンクール入賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選、文化庁舞台芸術創作奨励賞、第16回朝日作曲賞（吹奏楽、合唱組曲両部門で同時受賞）。第2回東京佼成ウインドオーケストラ作曲コンクール第1位。第21回芥川作曲賞受賞。現在、東京学芸大学教授。

出演者プロフィール

佐藤まどか（ヴァイオリン）

►東京藝術大学附属高校、同大学、同大学院修士課程を経て、同大学院博士後期課程修了。ヨーロッパで研鑽を積み、シベリウスの研究で博士号を取得。シベリウス国際ヴァイオリンコンクール第３位、プラハの春国際音楽コンクール特別賞、ヴァクラフ・フムル国際コンクール最高位など受賞多数。フィンランドをはじめ欧米でも活躍。ソロを中心として、室内楽や現代音楽など多彩な演奏活動を行っている。Contemporary αメンバー。上野学園大学准教授。日本シベリウス協会理事。

松岡麻衣子（ヴァイオリン）

►桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業、同大学研究科修了。IEMA（フランクフルト音楽・舞台芸術大学）にて研鑽を積んだ後、アンサンブル・リネア、アンサンブル・モデルン等の現代音楽演奏団体で、欧州を中心に世界各地の主要な現代音楽祭に招聘される。現代音楽演奏コンクール “競楽 XI” ２位。現在、同時代の作品演奏に多数携わるほか、他ジャンルのアーティストとの活動も積極的に行っている。

安藤裕子（ヴィオラ）

►東京藝術大学、同大学院修了。学内にて安宅賞受賞。卒業時、読売新人演奏会に出演。第３回日本室内楽コンクール第１位。第 52 回ジュネーブ国際コンクールヴィオラ部門セミファイナリスト。第 17 回ヴィットリオ · グイ国際室内楽コンクールデュオ部門最高位。宮崎国際音楽祭他、各地の音楽祭、演奏会に出演。東京シティフィル首席奏者を経て現在藝大フィルハーモニーア管弦楽団首席奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団のメンバー。東京藝術大学、洗足学園音楽大学、聖徳学園非常勤講師。

甲斐史子（ヴィオラ）

►桐朋学園音楽大学卒業。同大学研究科修了。現代音楽演奏コンクール “競楽Ⅴ” 第１位入賞、第 12 回朝日現代音楽賞受賞。2003 年度青山バロックザール賞受賞。ドイツ・ダルムシュタットにてクライニヒシュタイナー賞受賞。アンサンブル・ノマドメンバーとして第２回佐治敬三賞受賞。CD「アイヴス：ヴァイオリンとピアノのための４つのソナタ」が第 75 回文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。神奈川県立相模原弥栄高等学校、東京藝術大学 (ソルフェージュ科) 非常勤講師。

松本卓以（チェロ）

► P.11 をご覧下さい。

山澤　慧（チェロ）

►東京芸術大学附属高校、同大学を経て、同大学院を修了。第１１回現代音楽演奏コンクール " 競楽 XI" 第１位、第２４回朝日現代音楽賞受賞。音川健二、藤沢俊樹、河野文昭、西谷牧人、鈴木秀美、山崎伸子の各氏に師事。文化庁新進芸術家海外研修生として、フランクフルトにて M.Kasper 氏に師事。藝大フィルハーモニア管弦楽団首席チェロ奏者、千葉交響楽団契約首席チェロ奏者。

土橋庸人（ギター）

►ベルリン国立音楽大学ハンス・アイスラー大学院修了。リリエンフェルト (オーストリア) の音楽祭に招待、ドイツ文化センターにてクリスティーネ・イヴァノヴィッチによるエーリッヒ・フリートの「イザナギとイザナミ」の講演に出演。第一回パン・パシフィック現代音楽コンクール　アンサンブルの部　第一位。ウィーン・ギターフォーラム現代音楽賞、競楽ⅩⅢにて、入選及び審査員特別奨励賞を受賞。これまでにギターを松居孝行、佐藤紀雄、D．ゲーリッツの各氏に師事。

〈現音 Music of Our Time 2022〉

ペガサス・コンサート Series Vol.Ⅳ
❶小寺香奈（ユーフォニアム）
「ユーフォニアム微分音カタログ」

2022 年 12 月 8 日［木］
18:30 開場 19:00 開演
東京オペラシティリサイタルホール

1 **イワン・ヴィシネグラツキー**（1893-1976）
存在の日の2つの主題による瞑想曲 作品7 euph, pf
作曲1918-19年／改訂1976年

2 **山本裕之**
イポメア・アルバ euph, pf
作曲2009年

3 **松平頼曉**
コンタクト euph, pf
作曲2021年

——休憩——

4 **田中吉史**
告知、会見、ユーフォニアム euph
作曲2011年

5 **ミカエル・レヴィナス**（1949-）
旋回する鳥Ⅱ 3euph
作曲2005年／日本初演

6 **鈴木治行**
Roundabout euph, pf
作曲2022年／初演（小寺香奈委嘱）

演奏：**小寺香奈**（ユーフォニアム）

共演：**安田結衣子**（ピアノ）**川原三樹夫・円能寺博行**（ユーフォニアム）

gen-on Music of Our Time 2022

Pegasus Concert Series Vol.IV ❶KOTERA Kana, euphonium "Euphonium Microtonal Catalog"

Thursday 8 December 2022
19.00
Tokyo Operacity Recital Hall

Ivan WYSCHNEGRADSKY 1
Méditation sur deux thèmes de La Journée de l'Existence op.7
1918-19, rev.1976

YAMAMOTO Hiroyuki 2
Ipomoea alba for Euphonium and Piano
2009

MATSUDAIRA Yori-Aki 3
Contact / Euphonium and Piano
2021

— Intermission —

TANAKA Yoshifumi 4
annonce, interview, euphonium pour euphonium seul
2011

Michael LEVINAS 5
Spirales d'oiseaux II pour 3 euphoniums
2005, Japan premiere

SUZUKI Haruyuki 6
Roundabout for Euphonium and Piano
2022, premiere

KOTERA Kana, *euphonium*

YASUDA Yuiko, *piano* KAWAHARA Mikio, ENNOJI Hiroyuki, *euphonium*

ごあいさつ

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。

微分音が主要な要素として扱われている作品ばかりを集め、「ユーフォニアム微分音カタログ」というちょっとコミカルなタイトルを付けました。プログラムは、微分音の出発点としての意味合いから、ヴィシネグラツキーのチェロとピアノのための作品を冒頭に演奏し、一気に同時代の作品、それも主に邦人作品に焦点をあてた構成としました。

並べてみると、「微分音」という一つのテーマに沿ったものであるにも関わらず、作曲家それぞれが自身のスタイルやコンセプトに微分音を落とし込んでいて、どれ一つとして同じ使われ方はないことに気づかされます。

歪み、ぶつかり、システム、模倣、響き、そして…

半音より狭い音世界は十二平均律に慣らされた私たちの耳にどのように響くのでしょうか。ヴィシネグラツキーの実験から 100 年以上の月日が流れた今、現代の作曲家たちによる各々の創作の面白さを存分に味わっていただけましたら幸いです。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

小寺香奈

小寺香奈 KOTERA Kana, *euphonium*

東京藝術大学卒業、及び同大学大学院修了。ヤマハ管楽器新人演奏会出演。元埼玉県警察音楽隊ユーフォニアム奏者。2013年度海外派遣によりドイツ、ケルンに留学。アンサンブル・ムジークファブリックで研鑽を積む。ユーフォニアムを稲川榮一、外囿祥一郎、三宅孝典、Melvyn Poore、Michael Junghans の各氏に師事。これまでに国内外で新作初演を含む現代音楽作品の演奏やレクチャーを多数行う。2014年よりリサイタルシリーズ「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」を開始。ユーフォニアムの新しいレパートリーを創ることに力を注いでいる。2016年リリースのCD「ディスカヴァリー・ユーフォニアム」(フロレスタン、GEKKO)は、『レコード芸術』、『音楽現代』など多方面で高い評価を得た。2021年には、角田鋼亮指揮、セントラル愛知交響楽団と共演、同団委嘱の新作コンチェルトを初演した。VIVID BRASS TOKYOテナー・ホーン奏者。和歌山大学准教授。

1 イワン・ヴィシネグラツキー
存在の日の２つの主題による瞑想曲 作品７

ヴィシネグラツキーは 1893 年サンクトペテルブルクに生まれ、ペテルブルク音楽院で作曲を学んだ。スクリャービンに強い影響を受けている。1920 年にパリへ亡命し、その地で生涯をとじた。この作品は 1916 ～ 17 年にかけて書かれた大作、オラトリオ《存在の日》の中の旋律をもとに作曲されている。原曲はチェロとピアノの為の作品。微分音の開拓者として知られる彼が、それまでの 12 半音階主義から抜け出すきっかけとなった作品群の一つといえるであろう。ポスト・ワーグナーの半音階主義の延長として微分音の使用を試みた習作ともいえる。ロマン的な書法の中に、4 分音、3 分音、6 分音が使われており、各パッセージの中に半音より狭いこれらの音程を組み込み、微細で独特な音響表現を試みている。

さて微分音をユーフォニアムで演奏した場合、原曲のチェロで演奏するよりも運指の組み合わせの関係から音色に多少ムラが生じる。また曲中で指定されている 4 分音、3 分音、6 分音という微分音程の違いを完璧に演奏できるとは言い難い。しかしその不揃いな感じや運指の難しさ、またピッチ・コントロールの困難さ故、かえって微分音らしさが表現されるような気がする。（小寺香奈）

2 山本裕之
イポメア・アルバ

デュオという形態を取りながら、二つの楽器を対照的に扱うというよりはむしろ、ユーフォニアムとピアノはお互いを補完し合いながら音楽を紡いでいく。ただしユーフォニアムの音の多くは 12 平均律に対して 4 分の 1 音ずれているため、それが「正しいはず」のピアノのピッチを曖昧なものとしている。またピアノは通常奏法から逸脱していないのに対して、ユーフォニアムは所々で現代的な拡張奏法を用い、4 分の 1 音の使用とともにピアノに対する「楽器の対位法」を実践している。つまり二つの楽器は、アンサンブルとしては全く噛み合うような関係であるのに、どこかで常に齟齬が生じている、そんな歯がゆさを醸し出している。2009 年に作曲、同年小寺香奈、中川俊郎両氏によって初演。タイトルはヨルガオの学名。楽譜は BabelScores 社から出版されている。

（山本裕之）

3 松平頼暁
コンタクト

2021 年、小寺さんの委嘱により作曲。2 つの楽器による様々な形での接触を追求している。はじめの部分では、両者はほぼ同時に音を発する。次の部分では、ユーフォニアムに誘われて、ピアノが違うテンポでユーフォニアムの音型を追う。第 3 の部分では、両者が似たようなことを行う。最後の部分では、それまでの部分の回想を含んでいる。ユーフォニアムのパートには微分音が含まれている。全曲に関して、ピアノで提示される原音列を 2 分の 1 に縮めた 24 音列をユーフォニアムが演奏する。（松平頼暁）

4 田中吉史
告知、会見、ユーフォニアム

この作品では、フランスの Luce という若手女性ポップ歌手の話し声を、可能な限り正確に記譜し、器楽の中に「移植する」ことが試みられている。この作品の前半では、テレビ番組の CM（告知）、後半ではドキュメンタリー番組でのインタビュー（会見）が用いられているが、これらは同じ話し手でも非常に異なった抑揚やリズム的な特徴を持つ。

私は同種のアイデアに基づく作品をいくつか書いてきたが、常に中心にある音楽的関心は、人の話し声と楽器の特性との間にあるさまざまな齟齬をどう利用して、単に発話でも一般的な器楽作品でもないものを作るか、ということにある。当然、通常の半音階に当てはめることのできないピッチの処理も、大きな課題となる。ユーフォニアムの場合、微分音（この作品では四分音までの近似を行なっている）は通常のピッチと比べてややくすんだ音色を持ち、人の

声のような滑らかなピッチの変化は得られない。逆にそのことが、この作品のあまりユーフォニアムらしくない音の動きの中に、複雑で微妙な陰影を与えているのではないかと思う。（田中吉史）

5 ミカエル・レヴィナス
旋回する鳥II

パリ国立高等音楽院、ユーフォニアムクラスの卒業試験の課題曲として、3本のユーフォニアム、又はサクソルン・バスのために作曲された。3パートのうち、2ndパートのみに四分音が多用されており、今回は曲の途中までチューニング・スライドを4分の1音低くなるように抜いて演奏する。少しタイミングがズラされた同音型の高速パッセージの持続により、一本の太い線を作っていくような発想だが、リズムだけでなく、微分音によって更にその線をブレさせるような効果が現れている。まるで鳥の羽の動きを間近で観察しているかのような響きが展開される。鳥が空を自由に飛び回る様子や、その時に起こる空気のうねるような音が微分音や執拗に続くトレモロ、またズラされたリズムによって上手く表現されている。（小寺香奈）

6 鈴木治行
Roundabout

この作品の委嘱の条件は微分音をテーマにするということで、今回は3分音を基本に据えた音楽を構想した。3分音による作品は2013年の『句読点IX』がこれまで唯一だが、一方4分音を用いた作品はそれより多い。民族音楽は別として、西洋音楽の文脈の中での微分音を考えた場合、一般に最も多く用いられるのは4分音と思われるが、それは4分音が12平均律を更に2分割したものであることで、12平均律の延長で扱いやすいという理由が大きいだろう。しかし3分音となるとそうはいかない。そこが今回苦労し、また面白い点の一つでもあった。方向としては反復もの（という90年代から続けている路線）といえるが、繰り返しながらユーフォニアムのラインが3分音ずつ陥没してゆく作りや、反復の切り出し方が次第に伸びてゆく構造の作り方には過去の自作『Souvenir』や『三角洲』の影響がある。ユーフォニアムという楽器に初めてアプローチする機会を与えていただいた小寺香奈さんに感謝しつつ、本番を楽しみにしています。（鈴木治行）

鈴木治行：東京出身。1990年、若手作曲家グループTEMPUS NOVUMを結成、これまでにガウデアムス国際音楽週間（アムステルダム）、Les Inouies（ボルドー）、Experimental Intermedia（ニューヨーク）、サントリー・サマーフェスティバル（東京）、Music From Japan（ニューヨーク）その他で作品が演奏され、またNHK-FM、CSラジオスカイ、ラジオ・フランス、ベルリン・ドイツ・ラジオ、DRS2、ラジオ・カナダなどで放送されている。

共演者プロフィール

安田結衣子（ピアノ）

►京都市立音楽（現京都市立京都堀川音楽）高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学卒業時にアカンサス音楽賞受賞。パリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科に審査員の満場一致で入学、同音楽院を最優秀の成績で卒業。第 10 回現代音楽演奏コンクール “競楽 X” 入選。現代音楽セミナー「秋吉台の夏」ピアニスト兼講師。作曲家としても委嘱作品多数。現在はピアニスト・作曲家として活動する傍ら、東京藝術大学音楽学部などで後進の指導にもあたっている。

川原三樹夫（ユーフォニアム）

►吹奏楽の街、出雲市出身。パリ高等音楽院サクソルン・ユーフォニアム科を最優秀の成績で卒業。ヤマハヨーロッパコンクール優勝、第 6 回ルーマニア国際音楽コンクール管楽器部門最高位受賞。サクソルンを P. フリッチュ、室内楽を J. マクマナマ、G. ビュッケの各氏に師事。帰国後は棚田文則、平野達也、朴守賢など、邦人作曲家の新作初演、再演に積極的に取り組む。現在、ベッソンアーティスト、フランス人指揮者 Y. パジェ主宰 N'SO Kyoto メンバーとして活動。

円能寺博行（ユーフォニアム）

►神奈川県出身。東京藝術大学音楽学部卒業。2001 年第 18 回日本管打楽器コンクールユーフォニアム部門第５位入賞。これまでに稲川榮一、露木薫、山本訓久の各氏に師事。現在はフリーの奏者として活動中。また、自身の演奏活動の傍ら、後進の指導をはじめ、吹奏楽の指導にも力を注いでいる。TAD ウインドシンフォニーのメンバー。昭和音楽大学、東海大学教養学部芸術学科、横浜市立戸塚高等学校音楽コースの各非常勤講師。相模原音楽家連盟会員。

〈現音 Music of Our Time 2022〉

ペガサス・コンサート Series Vol.Ⅳ
❷近藤聖也（コントラバス）
「Ghost in the Double bass」

2022 年 12 月 9 日［金］
18:30 開場 19:00 開演
東京オペラシティリサイタルホール

1 **国枝春恵**
アーティキュレーション db
作曲 2001 年

2 **三善　晃**
リタニア db, perc
作曲 1978 年

3 **池辺晋一郎**
ストラータⅣ ob, db
作曲 1994 年

――休憩――

4 **三関健斗**
その発響現象によって音響拡大され db
作曲 2022 年／初演（近藤聖也委嘱）

5 **清水チャートリー**
変態ビートル db, perc
作曲 2022 年／初演（近藤聖也委嘱）

6 **松平頼曉**
レスポンス db, ob player
作曲 1992 年

演奏：**近藤聖也**（コントラバス）

共演：**會田瑞樹**（打楽器）**荒木奏美**（オーボエ）

gen-on Music of Our Time 2022

Pegasus Concert Series Vol.IV ❷KONDO Seiya, double bass "Ghost in the Double bass"

Friday 9 December 2022
19.00
Tokyo Operacity Recital Hall

KUNIEDA Harue 1
Articulation for Contrabass Solo
2001

MIYOSHI Akira 2
Litania pour Contrabass et Batteries
1978

IKEBE Shin-ichiro 3
STRATA Ⅳ for Oboe and Doublebass
1994

— Intermission —

MISEKI Kent 4
Moguphonoised by that phonemanon for Doublebass solo
2022, premiere

SHIMIZU Chatori 5
Hentai Beetle for Doublebass and Percussion
2022, premiere

MATSUDAIRA Yori-Aki 6
Response for Contrabass and Oboe player
1992

KONDO Seiya, *double bass*

AITA Mizuki, *percussion* ARAKI Kanami, *oboe*

ごあいさつ

Ghost in the Double bassとは、哲学者ギルバート・ライルが、デカルト的心身二元論（人間の心身を二つに分け、「魂」が「肉体」に宿っているとする考え方）を批判するために用いた“Ghost in the Machine（機械の中の幽霊）”による。しかし現在、特に創作においては、かえってそうした論を分かりやすく補強するような用いられ方をしており、本題もそれに倣っている。（ロボットやヒューマノイド、サイボーグ化した人間の心を題材にしたSF作品『攻殻機動隊/Ghost in the Shell』など）

本公演の目的は主に以下の３点である。

1. 初演以来、ほとんど演奏が行われていない邦人コントラバス作品の積極的再演
2. ソロ楽器としての独自性を確立している打楽器とオーボエ、それぞれとのデュオを通したその差異や共通点の検証およびソロ楽器としてのコントラバスの独自性の探究
3. 「有名作曲家の作品がないから」とソロを蔑ろ（ないがし）にし、テノールやチェロの模倣のような作品を求め、そしてソロ演奏の場を音大実技試験の参観日へと貶めているコントラバス業界へのアンチテーゼ……もとい「あてこすり」

近藤聖也

近藤聖也 KONDO Seiya, *double bass*

北海道大学工学部応用理工系学科応用物理工学コース卒業。国立音楽大学大学院修了。中高の吹奏楽部にて独学でコントラバスをはじめる。その際に溝入敬三氏による書籍と『コントラバス颱風』をはじめとした現代音楽のCDを参考にし、強い影響を受ける。（そうした音楽が「クラシック」として東京では盛んに演奏されていると当時は思っていた）
実母との死別を機に「自分が聴きたい演奏会」を開催することとした。後悔しないように。2021年3月にリサイタルを、7月に佐藤洋嗣氏とデュオコンサートを開催。"Mercure des arts"にて丘山万里子、齋藤俊夫両氏により両公演の批評が掲載される。同年12月には歌や朗読を伴う委嘱新作6曲による公演『ことばとこんとらばす』を開催し、コジマ録音での同プログラムのCD発売が決定する。ソロや室内楽におけるコントラバス独自の可能性の開拓・確立のため、漸進的な公演企画や演奏を行っている。勝手に。人格なき社団「こんどらベースオブアーツ」代表。

1 国枝春恵／アーティキュレーション

2001年に溝入敬三氏によって初演され、今回はそれ以来の再演になるとのこと。以下、楽譜掲載の作品解説より。

“アーティキュレーション”あえて作品のタイトルにするような言葉ではないのかもしれません。ニューグローブ音楽辞典によると「演奏における隣接した音相互のつなぎ方。ダイナミクス、テンポ、音色、イントネーション等におけるニュアンスとともに、フレージングの主要素である。…演奏媒体、音響学的環境によって異なる。…ヴァイオリン族の楽器では、弓による様々な奏法がこれにあてはまる。」とあります。当然のことながら、アーティキュレーションは、演奏家の技量によって多種多様に変化します。

この最低音域の大きな共鳴体を持つ楽器の極限に、日夜挑戦されている溝入敬三氏の演奏に触発されて書き下ろした数分間、豊穣な響きの宇宙を形成できれば本望です。

(“アーティキュレーション”は関節という意味もあり、高校時代にこの楽器を弾くはめになった私は、二十歳ごろから左の肩が鳴ってしまうのです。今は良くなりましたが…。)

(国枝春恵)

国枝春恵：東京生まれ。'81年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、'83年同大学院修了。'82年ヴィオッティ国際音楽コンクール作曲部門特別賞。作品はISCM-WMDルクセンブルク、スウェーデン、北京大会、タングルウッド現代音楽祭等で演奏されている。'03年文化庁特別派遣在外研修員。現在、日本現代音楽協会、21世紀音楽の会会員、熊本大学大学院教授。https://www.haruekunieda.com

2 三善晃／リタニア

日本のコントラバス独奏の新地平を拓かんとする演奏活動の先駆けともいえる元N響コントラバス奏者・田中雅彦氏の委嘱により書かれたコントラバスと打楽器の作品。Litaniaとは連祷の意で、カトリックにおける礼拝で司祭と会衆が交互に唱える祈りである。1台のコントラバスの独奏に導かれて呼応する大量の打楽器群との祈りの反響。(近藤聖也)

3 池辺晋一郎／ストラータⅣ

作曲家の池辺晋一郎氏といえばダジャレであるが、氏からとめどなく繰り出されるダジャレ、そしてそれを今か今かと待ちわびる聴衆。そこにはもはや、神事の一環としてやぐらから撒かれた餅を我先に拾うような、あるいは水行に励む修験者から飛び散る水しぶきを浴びるようなご利益や尊ささえ感じられる。

『ストラータ』は様々な異種楽器の二重奏による音楽表現を試みた一連の作品シリーズで、本作は溝入敬三、由美子夫妻により初演された。オーボエと完全1度(!?)のユニゾンメロディから始まる本作は徹頭徹尾大変な作品であるが、そこから生まれる音響は弦楽器であるコントラバスと木管楽器であるオーボエ、発音方法から異なる両者の音色の垣根を曖昧にする。(近藤聖也)

4 三関健斗
その発響現象によって音響拡大され

タイトルはアイルランドの作家、ジェイムズ・ジョイス(James Joyce 1882-1941)の最後の小説である『フィネガンズ・ウェイク』(Finnegans Wake)に登場する、英語にとどまらない様々な言語を駆使した、いわゆる「ジョイス語」と呼ばれる独特の表現が散りばめられた一文。この作品はこの一文から着想を得て作曲された。

私は「ノイズ」に得も言われぬ美しさを感じる。どこか遠くの犬の吠え声、昼過ぎにかかってくる誰かからの電話の音や街の喧騒、楽音の裏に隠された

噪音。この作品はスコルダトゥーラ（変則調弦）されたコントラバスという楽器を通して「ノイズ」や微細な音の揺らぎに耳を欹てることによって、音の背後に潜む音響の広がりを見出すことがテーマになっている。互いに流動的な関係性を持っているいくつかのセクションの中で、音は絶えず揺れ動き多種多彩に変容していく。（三関健斗）

三関健斗：作曲家。1996 年北海道札幌市生まれ。様々な楽器のための音楽から建物全体を使ったインスタレーション作品まで作曲活動は多岐にわたる。発音の際に伴う大小さまざまなノイズや、音そのものが連続することによって生み出される関係性の「糸」、拡張的な奏法への関心を根幹に置きつつ、文学、哲学、現代思想、情報システムやデジタル技術などの多層的な分野への興味と柔軟に結び付けながら創作を展開している。2020 年 1 月には札幌市で初の作品個展を開催。作品は、様々な演奏団体・演奏家らによって演奏されている。また、ひっそりと YouTube チャンネルを運営している。

5 清水チャートリー／変態ビートル

数年前のある朝、突然ベッドから起き上がることが出来なくなった。思えば複数のプロジェクトを同時に引き受けていたところに、異国の地での引っ越しやビザの更新が重なって時間と労力を奪われ、少し疲れていたのかもしれない。幸い、それは長くは続かなかったが、その時は天井を隅から隅まで見渡しながら、その状態が永遠に続くかのように感じていた。

フランツ・カフカの『変身』には様々な解釈があるが、事象としては案外身近に起こり得ることなのだと、認識させられる出来事であった。（清水チャートリー）

清水チャートリー：1990 年、大阪生まれ。国立音楽大学を首席で卒業と同時に有馬賞を受賞（コンピュータ音楽）。奨学生として米コロンビア大学修士課程（芸術学）、独ドレスデン音楽大学修士課程（作曲）を修了。これまでに作曲とコンピュータ音楽を今井慎太郎、川島素晴、古川聖、ジョージ・ルイス、ゾーシャ・ディ・カストリ、マーク・アンドレ、シュテファン・プリンスの各氏に師事。過剰な持続と反復を用いた数々のコンセプチュアルな作風を持つ現代音楽作品（管弦楽作品や電子音楽など）を作曲。21C Music Festival（カナダ）、ISCM 世界音楽の日々（ニュージーランド）、CROSSROADS Contemporary Music Festival Salzburg（オーストリア）、Lange Nacht der Wissenschaften（ドイツ）、nief norf Summer Festival（アメリカ）、Festival POTE（フランス）、Thailand International Composition Festival（タイ）、St. Petersburg International New Music Festival（ロシア）などの音楽祭などで作品が演奏されている。2016 年マルタ国際作曲コンクール優勝、第 10 回 JFC 作曲賞入選、第 4 回くにたち賞奨励賞受賞。

6 松平頼曉／レスポンス

コントラバス“奏者”とオーボエ“奏者”のための、というところがミソ。この作品も溝入敬三、由美子夫妻により初演された。以下、楽譜掲載の作品解説より。

1992 年、溝入敬三、由美子夫妻のために作曲。序奏を含めて 5 つの主要な部分と 8 つのパッセージからなっている。それぞれの所要時間はフィボナッチ数列（1-1-2-3-5-8-13-21…）の各項、または初項から途中項までの和に由来している。すなわち、主要部分はそれぞれ、33”、88”、230”、142”、54”、パッセージは 13”、8”、1”、5”、20”、3”、1”、2”、である。音響的に、音型的に、そして行為に関して、2 奏者はお互いに応答する。題名はそのことを表している。約 10 分間の作品。

（松平頼曉）

共演者プロフィール

會田瑞樹（打楽器）

► 1988 年宮城県仙台市生まれ。2010 年日本現代音楽協会主催 “競楽 IX” 第二位入賞と同時にデビュー以降、これまでに 300 作品以上の新作初演を手がけ「初演魔」の異名をとる打楽器 / ヴィブラフォン奏者。作曲家として 2019 年第 10 回 JFC 作曲賞入選、2021 年リトアニア聖クリストファー国際作曲コンクール LMIC 特別賞受賞。2022 年 2 月には東京都「アートにエールを！」採択事業として初の自作自演個展を開催。10 月には會田瑞樹・谷口かんなヴィブラフォンデュオリサイタルにおいて自らが作曲を手掛けた《祭禮 —二台のヴィブラフォンのための協奏曲—》を新田ユリ指揮、京都室内合奏団とともに世界初演。2020 年発売の最新アルバム「いつか聞いたうた　ヴィブラフォンで奏でる日本の叙情」は年間最優秀ディスクとなる第 59 回レコードアカデミー賞受賞。ヴィブラフォン、現代作品の魅力を多彩に紹介した成果により令和 2 年度大阪文化祭奨励賞、令和 3 年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。かなっくホールレジデントアーティスト。ホームページ・http://mizukiaita.tabigeinin.com

荒木奏美（オーボエ）

►在学中の 2015 年（21 歳）より東京交響楽団の首席奏者。第 11 回国際オーボエコンクール・軽井沢では、アジア勢で初となる第 1 位、併せて聴衆賞を受賞。第 27 回出光音楽賞。H・ホリガーに認められトリオでツアー公演を行う。ソリストとして東響、都響などと協演。デビューリサイタルを東京・春・音楽祭で行い、各地でソロコンサートや音楽祭への参加、新作の初演含む現代音楽、劇伴レコーディングなど幅広く音楽に取り組んでいる。新進気鋭の次世代型アンサンブル「Ensemble FOVE」、反田恭平率いる「Japan National Orchestra」メンバー。東京藝大を首席卒業後、同院修士課程修了。茨城県出身。

〈現音 Music of Our Time 2022〉

第15回現代音楽演奏コンクール “競楽XV”本選会

2022 年 12 月 25 日［日］
13:20 開場 13:30 開演
けやきホール（古賀政男音楽博物館内）

▼ 13:30 ～　ファイナリストによる演奏

●参加要項より抜粋

・国籍および年齢を問いません。予選、本選において、1945 年以降に作曲された演奏者 1 名から 6 名までを要する楽曲（必ず日本人作品を含む）の原則として全曲を演奏します。
・演奏する楽曲の、楽器編成は、自由です。声・声楽も差し支えありません。
・即興演奏については、提出された楽譜に指示がある場合のみ認められます。

▼ 18:30 頃～　結果発表

演奏終了後、ただちに集計され、舞台上にて発表いたします。
結果発表に引き続き表彰式を行います。

第 1 位　賞状・賞金 30 万円
第 2 位　賞状・賞金 10 万円
第 3 位　賞状・賞金 5 万円
審査委員特別奨励賞　賞状ほか

◎審査委員　※敬称略、五十音順
　野平一郎（作曲・日本現代音楽協会会員／審査委員長）
　大石将紀（サクソフォン）
　苅田雅治（チェロ）
　糀場富美子（作曲・日本現代音楽協会理事）
　松平 敬（バリトン）
►予選第1日　2022 年 11 月 8 日［火］12:05 開始
►予選第2日　2022 年 11 月 9 日［水］10:35 開始
►本　　選　2022 年 12 月 25 日［日］13:30 開始

ファイナリストのプロフィール、演奏曲目は、右記のQRコードをスマートフォン等で読み込むことでご覧になれます。パソコンでご覧になる場合は www.jscm.net から「競楽」のページにアクセスしてください。

gen-on Music of Our Time 2022

The 15th JSCM Competition for Contemporary Music Players

“KYOUGAKU XV” Final stage

Sunday 25 December 2022
13.30
Keyaki Hall

▼ 13.30 ～ Final stage

▼ 18.30 ～ result announcement

The 1st prize: JPY 300,000
The 2nd prize: JPY 100,000
The 3rd prize: JPY 50,000

Some other prizes such as Jury prize may be awarded to the excellent players in the final stage.

◎ Jury:
NODAIRA Ichiro (chief juror) *composer, member of JSCM*
OISHI Masanori, *saxophone*
KANDA Masaharu, *violoncello*
KOHJIBA Tomiko *composer, executive committee member of JSCM*
MATSUDAIRA Takashi, *baritone*

► Preliminary round: Tuesday 8 November 2022 12.05
► Preliminary round: Wednesday 9 November 2022 10.35
► Final stage: Sunday 25 December 2022 12.25

〈現音 Music of Our Time 2022〉

第15回現代音楽演奏コンクール “競楽XV”本選会

1 **風見瑶子** (ピアノ) **KAZAMI Yoko, *piano***
湯浅譲二／内触覚的宇宙 (作曲1957年)
Elliott CARTER／Piano Sonata I (作曲1945-6年)

2 **天野由唯** (ピアノ) **AMANO Yui, *piano***
新実徳英／ピアノのためのエチュード―神々への問い―第3巻 (作曲2017年)

3 **丸山里佳** (ソプラノ) **MARUYAMA Satoka, *soprano***
服部和彦／Maila Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ (作曲2011-14年)
John CAGE／A Flower (作曲1950年)
Mauricio KAGEL／Der Turm zu Babel (作曲2002年) より
1. Dänisch, 2. Deutsch, 3. Englisch

――休憩――

4 **島田菜摘** (打楽器) **SHIMADA Natsumi, *percussion***
池辺晋一郎／モノヴァランス Ⅳ マリンバ等のために (作曲1975年)

5 **北條歩夢** (打楽器) **HOJO Ayumu, *percussion***
Casey CANGELOSI／Tap Oratory (作曲2015年)
三善晃／リップル 独奏マリンバのための (作曲1991年)

6 **中村　淳** (フルート) **NAKAMURA Jun, *flute***
Philippe HUREL／Éolia (作曲1982年)
藤倉大／Lila for flute (作曲2015年)

――休憩――

7 **青柳はる夏** (打楽器) **AOYAGI Haruka, *percussion***
Philippe MANOURY／LE LIVRE DES CLAVIERS (作曲1987-8年) より
Ⅳ. Solo de vibraphone
石井眞木／THIRTEEN DRUMS for percussion solo op.66 (作曲1985年)

8 **福光真由** (マリンバ) **FUKUMITSU Mayu, *marimba***
福士則夫／樹霊 ソロ・パーカッションのための (作曲1995年)

9 **内山貴博** (フルート) **UCHIYAMA Takahiro, *flute***
福島和夫／春讃 (作曲1969年)
Hans ZENDER／Mondschrift (Lo-shu Ⅱ) für Flöte solo (作曲1978年)

〈現音 Music of Our Time 2022〉

レクチャー Series 新しい創造の扉
第1日 AIと現代音楽

2022 年 11 月 13 日［日］
13:30 開場 14:00 開演
洗足学園音楽大学アンサンブルシティ棟 C604 教室

自動作曲システム“Orpheus”を開発したことで知られる工学博士の嵯峨山茂樹氏を迎えて、AIや音楽テクノロジーを活用したこれからの音楽創造の可能性について考えるシンポジウムです。来場される方は事前に2021年度にオンライン開催された「第5回日本AI音楽学会フォーラム〜嵯峨山茂樹氏を迎えて」のアーカイヴ動画を視聴した上で参加ください。

登壇者：嵯峨山茂樹・安藤大地
進行役：松尾祐孝

共催：日本AI音楽学会

〈現音 Music of Our Time 2022〉

レクチャー Series 新しい創造の扉
第2日 カーゲル再考

2022 年 12 月 4 日［日］
13:30 開場 14:00 開演
洗足学園音楽大学アンサンブルシティ棟 C210 教室

2021年12月開催の〈現音 Music of Our Time 2021〉における『M.カーゲル「国立劇場」より“レパートリー”』公演は、250種類以上の楽器や生活用具などを使った大規模なパフォーマンス作品の上演で、作曲から半世紀後の現在にも深い示唆を与える記念碑的演奏会となりました。この演奏会の意義や作品のレガシーを、今後の芸術創造にどう活かしうるかを考えます。

登壇者：中川俊郎・新垣隆・西村紗知
進行役：松尾祐孝

会 員 名 簿

2022年11月現在

名 誉 会 員

三枝　成彰	篠原　　眞	坪能　克裕	松平　頼曉	湯浅　譲二
佐藤　　眞	下山一二三	福士　則夫	松永　通温	

正 会 員

青嶋　広志	菊池　幸夫	三枝木宏行	中島　克磨	深見麻悠子	宮崎　　滋
赤石　敏夫	北爪　道夫	佐藤　昌弘	中島　洋一	福井とも子	村田　昌己
赤石　直哉	北爪やよひ	渋谷　由香	中辻早百合	福田　　陽	桃井千津子
浅野　藤也	木下　大輔	嶋津　武仁	なかにしあかね	藤原　嘉文	森垣　桂一
天野　正道	木下　牧子	清水　昭夫	中村　明一	北條　直彦	森田泰之進
池田　　悟	木山　　光	清水　研作	中村　滋延	北條美香代	守屋　祐介
石田　匡志	楠　　知子	鈴木　純明	中村　典子	星谷　丈生	諸橋　玲子
和泉　耕二	国枝　春恵	ゼミソン・ダリル	名倉　明子	堀　　悦子	安田謙一郎
板津　昇龍	久保　　禎	平良伊津美	成本　理香	堀切　幹夫	安良岡章夫
出田　敬三	倉内　直子	高嶋みどり	新垣　　隆	蒔田　尚昊	柳田　孝義
伊藤　高明	栗原　邦子	高仲　　広	西尾　　洋	ﾄｰﾏｽ･ﾏｲﾔｰﾆﾌｨｰﾋﾞｯﾋ	山内　雅弘
伊藤　弘之	栗本　洋子	高橋　雅光	新田　祥子	正門　憲也	山崎　一繁
植野　洋美	郡司　　敦	高橋　克行	二宮　　毅	増田　建太	山本　成宏
宇野　文夫	高　　昌帥	高橋　理文	二宮　玲子	増本伎共子	山本純ノ介
梅川　令子	糀場富美子	高見富志子	野崎勇喜夫	松尾　祐孝	山本　裕之
梅北　直昭	甲田　　潤	田鎖大志郎	野澤　啓子	松岡　貴史	横島　　浩
遠藤　雅夫	河内　琢夫	田口　雅英	野平　一郎	松岡みち子	莱　　孝之
大慈弥恵麻	河野　敦朗	橘　晋太郎	法倉　雅紀	松波匠太郎	ロクリアン正岡
大谷　千正	小島有利子	田中　範康	萩　　京子	三上　次郎	渡辺　俊哉
大野　和子	小林　　聡	田中　　均	橋本　　信	水野みか子	
奥田　美穂	小林　治樹	田丸彩和子	早川　和子	三角千恵子	
小坂　直敏	小山　和彦	塚本　一実	久田　典子	見澤ゆかり	
甲斐　直彦	木幡由美子	土屋　　雄	久留　智之	南　　聡	
門脇　　治	近藤　浩平	露木　正登	久行　敏彦	南川　弥生	
金子　仁美	近藤　　譲	土井智恵子	飛田　泰三	峰村　澄子	
鎌田　　実	近藤　春恵	徳永　　崇	平野　義久	宮木　朝子	
神長　貞行	佐井　孝彰	外山三保子	深澤　　舞	三宅　榛名	
河添　達也	斉木　由美	中川　俊郎	深澤　倫子	三宅　康弘	

ユ ー ス 正 会 員

伊藤　　彰	大平　泰志	谷口　倫子	松本悠理香
井上　　渚	紺野　鷹生	増田　建太	柳川　瑞季

役員・組織

2022年11月現在

役員

理事長：近藤　譲
副理事長：森垣　桂一　福井とも子
事務局長：渡辺　俊哉
理事：赤石　直哉　金子　仁美　北爪　道夫　糀場富美子　近藤　譲
佐藤　昌弘　坪能　克裕　露木　正登　中川　俊郎　福井とも子
福士　則夫　松尾　祐孝　松平　頼曉　森垣　桂一　森田泰之進
山内　雅弘　山本　裕之　渡辺　俊哉
監事：三枝木宏行　正門　憲也

維持会友名簿

2022年11月現在

法人会友

(公財)NHK交響楽団
(株)音楽之友社
(株)河合楽器製作所
国立音楽大学
(公財)サントリー芸術財団
尚美学園大学
(学)洗足学園
桐朋学園大学
日本大学 芸術学部
フェリス女学院大学 音楽学部学会
ブレーン(株)
プロフェッショナル・パーカッション

個人会友

安部　淳
池口　敬子
池田　建夫
池田須枝子
伊藤　周
井上　二葉
岩瀬　龍太
江戸　純子
及川　夕美
大須賀かおり
大間々　昂
小田切美香
甲斐　史子
勝田　聡一
神長　祥枝
菊池百合子
北川　暁子
木村かをり
木村　弓
古木康太郎
越野　修輔
小島　順一
小島　幸雄
佐々木　光
佐多　光春
佐野　光司
佐山　一通
篠木　洋子
首藤健太郎
新海　立子
菅沼　準二
鈴木　隆雄
鈴木　良
瀬山　詠子
高久　暁
高澤　穣
高橋　冽子
田島　亘
田中　信昭
田野辺賢治
田原　順子
鶴田　俊正
戸石　文哉
徳岡　紀子
徳澤　姫代
中嶋　香
中野　洋子
中畑　秋恵
中村　和枝
西崎　俊典
伴野　龍弥
ピアノデュオ・ドゥオール
廣川　雅夫
福田　隆
藤井　一興
藤本　隆文
北條　哲男
本多　健二
前田　壽一
松井　滋
松尾　信子
松永加也子
松本　静子
松本　卓以
間部　令子
三浦　尚之
水野佐知香
水野　淳
宮澤　裕夫
村田　厚生
山口　賢治
楊　麗貞
横山　昌明
吉村　仁
吉村　七重
米田　栄子
若林みち子

現音 Music of Our Time 2022

発行

2022年11月

特定非営利活動法人日本現代音楽協会（国際現代音楽協会日本支部）

〒141-0031　東京都品川区西五反田7-19-6-2F

TEL■03-6417-0393　FAX■03-6417-0394

E-mail■gen-on1930@jscm.net　Website■www.jscm.net

PRINTED IN JAPAN